

令和 7 年度 横浜システム工学院専門学校

工業専門課程 2 年次 シラバス

令和 7 年度シラバス

				担当教員 たんとうきょういん	実務経験 じつむけいけん		
				吉川 洋平	○		
対象学科 たいしょうがつか	■IG □AI ■GS □BD □GB □IL						
科目名 かもくめい	Webシステム開発応用a かいほうおうよう						
年次 ねんじ	2 年 ねん	開講期 かいこうき	第1期 だいき	区分 くぶん	必修 ひつしゅう 選択 せんたく 必修 ひつせん	授業時数 じゅぎょうじすう	72 時間 じかん
授業 とうたつもくひょう 到達目標	【最終期授業の到達目標】 Web開発に必要なPHP/MySQLを利用した開発スキルを身につけ、データベースアプリケーションを開発する。 【当期授業の到達目標】 PHPを使用してMySQLにアクセスし、データ参照・挿入・編集・削除ができ、基本的なデータベースアプリケーションが作成できる。						
授業概要 じゅぎょうがいよう	PHPでMySQLにアクセスする方法を学び、データベースへのデータ参照・挿入・編集・削除機能を作成する。						
授業の うんえいほうほう 運営方法	PHPとMySQLについて解説を加えながらメモアプリ作成の例題に取り組む。 エラー等が発生した場合は、グループでデバッグを行い、理解を深める。						
担当教員 からの メッセージ	昨今は、Webシステムが我々の身近なものとなっている。Webシステムでは、PHPなどのサーバーサイドの技術によりデータベースを扱うことが必須である。ここでは、PHPとSQLを取り上げ、データベースを扱うWebページを作成できる技術を身につけてほしい。						
理解度 テスト、課題 (レポート等)	毎週理解度テストを実施する。 定期試験は課題制作とする。 必要に応じて授業で取り組んだ例題の提出を求める。						
定期試験	【受験資格】出席率70%以上の学生 【試験方法】仕様を提示しそれに基づいた課題を制作する						
成績評価の 方法・基準	平常点10%、理解度テスト40%、定期試験50%の計100%で評価し、合計60%以上を合格とする。						
オフィス アワー	月曜から金曜。担当授業のない時間。事前に口頭・メールで予約すること。						
教材	クラスルームに配布するプログラムファイル						
参考書	よくわかるPHPの教科書 PHP7対応版						

科目名	Webシステム開発応用a	担当教員	吉川
授 業 計 画			
回数	内容	ALの形態	授業の狙い
1週目	PHP構文の復習 phpMyAdminの使い方の復習	事前学習型	PHPによる動的なWebページ制作の応用力を身に着ける。
2週目	MySQLへの接続		
3週目	データ一覧・詳細画面を作る		
4週目	ペーシングと編集・削除		
5週目	データベースの設計		
6週目	会員登録とログイン画面		
7週目	その他詳細機能の作成		
8週目	定期試験		
9週目	定期試験の振り返り		
事前学習型授業：教科書／参考書等により講義部分を授業外に事前学習させた上で、授業内でその事前学習にもとづく演習をおこなわせる方法			

令和 7 年度シラバス

				担当教員 たんとうきょういん	実務経験 じつむけいけん		
				吉川 洋平	○		
対象学科 たいしょうがつか	■IG □AI ■GS □BD □GB □IL						
科目名 かものめい	Webシステム開発応用b かいほうおうよう						
年次 ねんじ	2 年 ねん	開講期 かいこうき	第2期 だいき	区分 くぶん	必修 ひつしゅう □必修■選択□必選	授業時数 じゅぎょうじすう	72 時間 じかん
授業 とうたつもくひょう 到達目標	【最終期授業の到達目標】 Web開発に必要なPHP/MySQLを利用した開発スキルを身につけ、データベースアプリケーションを開発する。 【当期授業の到達目標】 グループにてPHPとMySQLを使用したデータベースアプリケーションの企画・設計・開発ができる。						
授業概要 じゅぎょうがいよう	グループにてアプリケーションの企画・設計・開発を行う。						
授業の うんえいほうほう 運営方法	グループごとにアプリケーションを企画し、設計と開発を行う。全員がプログラミングを行うよう、画面ごとに分担する。						
担当教員 からの メッセージ	昨今は、Webシステムが我々の身近なものとなっている。Webシステムでは、PHPなどのサーバーサイドの技術によりデータベースを扱うことが必須である。ここでは、PHPとSQLを取り上げ、データベースを扱うWebページを作成できる技術を身につけてほしい。						
理解度 テスト、課題 (レポート等)	毎週作業報告書を提出する。 定期試験は課題制作とする。 必要に応じて授業で取り組んだ課題の提出を求める。						
定期試験	【受験資格】 出席率70%以上の学生 【試験方法】 グループでデータベースサイトを企画・設計・制作する						
成績評価の ほうほう 方法・基準	平常点10%、理解度テスト40%、定期試験50%の計100%で評価し、合計60%以上を合格とする。						
オフィス アワー	月曜から金曜。担当授業のない時間。事前に口頭・メールで予約すること。						
教材	クラスルームに配布するプログラムファイル						
参考書	よくわかるPHPの教科書 PHP7対応版						

科目名	Webシステム開発応用b	担当教員	吉川
授 業 計 画			
回数	内容	ALの形態	授業の狙い
1週目	アプリケーションの企画	実習型(グループワーク)	PHPによる動的なWebページ制作の応用力を身に着ける。
2週目	機能の洗い出し・画面設計		
3週目	データベース設計		
4週目	コーディング・デバッグ		
5週目	コーディング・デバッグ		
6週目	コーディング・デバッグ		
7週目	コーディング・デバッグ		
8週目	定期試験		
	(作業進捗の報告)		
9週目	サイト発表会		
実習型(グループワーク)授業：これまで学んできた知識・例題をもとに、授業内でグループワークにより演習をおこなわせる方法			

れいわ ねんど
令和 7 年度シラバス

れいわ ねんど 令和 7 年度シラバス				たんとくきょういん 担当教員		じつむけいけん 実務経験	
				花島 恒登		○	
たいしょうがつか 対 象 学 科	■IG □AI ■GS □BD □GB □IL						
かめくめい 科 目 名	かいほつ ゲーム開発a						
ねんじ 年 次	ねん 2年	かいこうき 開講期	だい き 第1期	くぶん 区 分	ひつしゅう せんたく ひつせん □必修■選択□必選	じゅぎょうじすう 授 業 時 数	じかん 72 時間
じゅぎょう 授 業 とうたつもくひょう 到達目標	(さいしゅうきじゅぎょう とうたつもくひょう) 【最終期授 業 の到達目標】 自分が企画した2Dまたは3Dのゲームを制作（プログラミング）できるようになる。 (とうきじゅぎょう とうたつもくひょう) 【当期授 業 の到達目標】 実際にゲームを制作していくことでプログラミングについて学び、ゲーム制作の基本を理解する。また問題を自らの力で解決する能力を身につける。						
じゅぎょうがいよう 授 業 概 要	システム開発経験を有する教員からゲームプログラミングに対する知識を説明する。様々なツールなども利用しつつ実際にゲームを制作できる能力を身につける。						
じゅぎょう 授 業 の うんえいほうほう 運営方法	じっしゅうおよびしつぎおうとう 実 習 及 び 質 疑 応 答						
たんとくきょういん 担 当 教 員 からの めっせーじ メッセージ	さまざまなアイデアを出し、それを実現するためにはどうしたらいいのか。常に色々考え続けて授業に参加すること。また、発生した問題を自分で解決する能力を身につけること(インターネットで検索する/他者へ相談するなど)。						
りかいど 理 解 度 てすと テ ス ト	じゅぎょうごと りかいどてすと かだいでいしゅつ 授 業 毎 に、理 解 度 テ ス ト、課 題 を 提 出。						
ていきしけん 定 期 試 験	(じゅげんしかく) しゅつせきりつ70 いじょう がくせい 【受験資格】出席率70%以上の学生 (しけんほうほう) せいさく しけん 【試験方法】プログラム制作による試験						
せいせきひょうか 成 績 評 価 の ほうほう きじゅん 方法・基準	ほんこう せいせきひょうかきじゅん もとづき とうたつもくひょうたっせいど つぎ ほうほう ひょうか 本校の成績評価基準に基づき、到達目標達成度を次の方法で評価。 ・定期試験 50% ・平常点（授業態度や演習への取り組み）10% ・理解度テスト 40%						
オフィス アワー	ほうかご めーるべーす たいめん たいおう ただし じぜん つごう かくにん 放課後、メールベースあるいは対面にて対応。但し、事前に都合を確認のこと。						
きょうざい 教 材	なし						
さんこうしょ 参 考 書							

科目名	ゲーム開発a	担当教員	花島
授 業 計 画			
回数	授 業 内 容	AL の形態	授 業 の狙い
1 週目	ガイダンス ゲーム開発のための準備（ツール利用法/開発環境）	対話・議論型	ゲーム制作を通してプログラミング技術を身につける
2 週目	ゲーム制作演習① (シーン/スクリプト)	事前学習型 対話・議論型	
3 週目	ゲーム制作演習② (オブジェクトの操作)	事前学習型 対話・議論型	
4 週目	ゲーム制作演習③ (オブジェクトの管理)	事前学習型 対話・議論型	
5 週目	ゲーム制作演習④ (ゲームプログラミング)	事前学習型 対話・議論型	
6 週目	自分のアイデアを盛り込む (各自アイデアを検討/追加)	対話・議論型 調査学習型	自分のアイデアを実現する能力を身につける
7 週目	自分のアイデアを盛り込む (各自アイデアを検討/追加)	対話・議論型 調査学習型	
8 週目	発表準備/プレゼンテーション/実演	プレゼンテーション	他者のアイデアなどを聞き、今後の参考とする
9 週目	フィードバック	調査学習型	反省点をまとめる
【AL形態の内容】 対話議論型：講師からの発問による対話、学生間の議論を取り入れた講義 事前学習型：あらかじめ講師が掲示した資料を読み事前に学習し、実践を中心とした講義。 調査学習型：問題解決のため、インターネットや関連書籍を自らが調査し、学んでいく講義。			

れいわ ねんど
令和 7 年度シラバス

れいわ ねんど 令和 7 年度シラバス				たんとくきょういん 担当教員		じつむけいけん 実務経験	
				花島 恒登		○	
たいしょうがつか 対 象 学 科	■IG □AI ■GS □BD □GB □IL						
かこくめい 科 目 名	かいほう ゲーム開発b						
ねんじ 年 次	ねん 2年	かいこうき 開講期	だい き 第2期	くぶん 区 分	ひつしゅう せんたく ひつせん □必修■選択□必選	じゅぎょうじすう 授 業 時 数	じかん 72 時間
じゅぎょう 授 業 とうたつもくひょう 到達目標	(さいしゅうきじゅぎょう とうたつもくひょう) 【最終期授 業 の到達目標】 自分が企画した2Dまたは3Dのゲームを制作（プログラミング）できるようになる。 (とうきじゅぎょう とうたつもくひょう) 【当期授 業 の到達目標】 実際にゲームを制作していくことでプログラミングについて学び、ゲーム制作の基本を理解する。また問題を自らの力で解決する能力を身につける。						
じゅぎょうがいよう 授 業 概 要	システム開発経験を有する教員からゲームプログラミングに対する知識を説明する。様々なツールなども利用しつつ実際にゲームを制作できる能力を身につける。						
じゅぎょう 授 業 の うんえいほうほう 運営方法	じっしゅうおよび質疑応答						
たんとくきょういん 担 当 教 員 からの めっせーじ メッセージ	さまざまなアイデアを出し、それを実現するためにはどうしたらいいのか。常に色々考え続けて授業に参加すること。また、発生した問題を自分で解決する能力を身につけること(インターネットで検索する/他者へ相談するなど)。						
りかいど 理 解 度 てすと テ ス ト	じゅぎょうごと りかいど てすと かだい ていしゆつ 授 業 毎 に、理 解 度 テ ス ト、課 題 を 提 出。						
ていきしけん 定 期 試 験	(じゅげんしかく) しゅつせきりつ70 いじょう がくせい 【受験資格】出席率70%以上の学生 (しけんほうほう) せいさく しけん 【試験方法】プログラム制作による試験						
せいせきひょうか 成 績 評 価 の ほうほう きじゅん 方法・基準	ほんこう せいせきひょうかきじゅん もとづき とうたつもくひょうたっせいど つぎ ほうほう ひょうか 本校の成績評価基準に基づき、到達目標達成度を次の方法で評価。 ・定期試験 50% ・平常点（授業態度や演習への取り組み）10% ・理解度テスト 40%						
オフィス アワー	ほうかご めーるべーす たいめん たいおう ただし じぜん つごう かくにん 放課後、メールベースあるいは対面にて対応。但し、事前に都合を確認のこと。						
きょうざい 教 材	なし						
さんこうしょ 参 考 書							

科目名	ゲーム開発b	担当教員	花島
授 業 計 画			
回数	授 業 内 容	AL の形態	授 業 の狙い
1しゅうめ 1 週目	ゲーム制作演習① (ゲーム制作①および応用)	対話・議論型	ゲーム制作を通してプログラミング技術を身につける
2しゅうめ 2 週目	ゲーム制作演習② (ゲーム制作②および応用)	事前学習型 対話・議論型	
3しゅうめ 3 週目	ゲーム制作演習③ (ゲーム制作③および応用)	事前学習型 対話・議論型	
4しゅうめ 4 週目	自分のアイデアを考えよう (各自アイデアを検討/制作)	事前学習型 対話・議論型	自分のアイデアを実現する能力を身につける
5しゅうめ 5 週目	オリジナルゲーム制作 (各自アイデアを制作)	事前学習型 対話・議論型	
6しゅうめ 6 週目	オリジナルゲーム制作 (各自アイデアを制作)	対話・議論型 調査学習型	
7しゅうめ 7 週目	オリジナルゲーム制作 (各自アイデアを制作)	対話・議論型 調査学習型	
8しゅうめ 8 週目	発表準備/プレゼンテーション/実演	プレゼンテーション	他者のアイデアなどを聞き、今後の参考とする
9しゅうめ 9 週目	フィードバック	調査学習型	反省点をまとめる
【AL形態の内容】 対話議論型：講師からの発問による対話、学生間の議論を取り入れた講義 事前学習型：あらかじめ講師が掲示した資料を読み事前に学習し、実践を中心とした講義。 調査学習型：問題解決のため、インターネットや関連書籍を自らが調査し、学んでいく講義。			

れいわ ねんど
令和 7 年度シラバス

れいわ ねんど 令和 7 年度シラバス				たんとくきょういん 担当教員		じつむけいけん 実務経験	
				吉川 洋平		○	
				影山 正幸		○	
たいしょうがつか 対象学科	■IG □AI ■GS □BD □GB □IL						
かもくめい 科目名	アプリケーション開発実習a						
ねんじ 年次	ねん 2年	かいこうき 開講期	だい き 第1期	くぶん 区分	ひつしゅう せんたく ひつせん ■必修□選択□必選	じゅぎょうじすう 授業時数	じかん 54 時間
じゅぎょう 授業 とうたつもくひょう 到達目標	(さいしゅうきじゅぎょう とうたつもくひょう) 【最終期授業の到達目標】 グループで企画したシステムを制作し、完成させる。 (とうきじゅぎょう とうたつもくひょう) 【当期授業の到達目標】 グループで一つの企画を考え、それをシステム化するために、要件定義をおこない、設計書を様式に合わせて作成できるようになる。問題解決能力とコミュニケーション能力を身につける。						
じゅぎょうがいよう 授業概要	システム開発経験を有する教員から設計とプログラミングに対する知識を説明する。様々なツールなども利用しつつ実際にシステムを制作できる能力を身につける。						
じゅぎょう 授業の うんえいほうほう 運営方法	じっしゅうおよびしつぎおうとう 実習及び質疑応答						
たんとくきょういん 担当教員 からの メッセージ	さまざまなアイデアを出し、それを実現するためにはどうしたらいいのか。常に色々考え続けて授業に参加すること。また、発生した問題を自分で解決する能力を身につけること(インターネットで検索する/他者へ相談するなど)。						
りかいど 理解度 テスト	じゅぎょうごと りかいど てすと かだい ていしゅつ 授業毎に、理解度テスト、課題を提出。						
ていきしけん 定期試験	(じゅけんしかく) しゅつせきりつ70 いじょう がくせい 【受験資格】出席率70%以上の学生 (しけんほうほう) かだいせいさく しけん 【試験方法】課題制作による試験						
せいせきひょうか 成績評価 の ほうほう きじゆん 方法・基準	ほんこう せいせきひょうか きじゆん もとづき とうたつもくひょう たっせいど つぎ ほうほう ひょうか 本校の成績評価基準に基づき、到達目標達成度を次の方法で評価。 ・定期試験 50% ・平常点 (授業態度や演習への取り組み) 10% ・理解度テスト 40%						
オフィス アワー	ほうかご めー べー す たいめん たいおう ただし じぜん つごう かくにん 放課後、メールベースあるいは対面にて対応。但し、事前に都合を確認のこと。						
きょうざい 教材	なし						
さんこうしょ 参考書							

科目名	アプリケーション開発実習a	担当教員	吉川・影山
授業計画			
回数	授業内容	ALの形態	授業の狙い
1回目	ガイダンス・チームビルディング システム開発の流れについて	対話・議論型	システム制作を通して 開発スキルとコミュニケーションスキルを身につける
2回目	システム開発演習① (概要設計書の説明・スケジュール作成)	事前学習型 対話・議論型	
3回目	システム開発演習② (詳細設計書の説明・役割分担・制作開始)	事前学習型 対話・議論型	
4回目	システム開発演習③ (システム制作：プログラミング・DB作成)	事前学習型 対話・議論型	
5回目	システム開発演習④ (システム制作：プログラミング・DB管理)	事前学習型 対話・議論型	
6回目	課題設定 (各自課題を設定／設計書変更)	対話・議論型 調査学習型	課題を設定して、解決する能力を身につける
7回目	課題制作 (各自課題制作)	対話・議論型 調査学習型	
8回目	発表準備/プレゼンテーション/実演	プレゼンテーション	他者のアイデアなどを聞き、今後の参考とする
9回目	フィードバック	調査学習型	反省点をまとめる
【AL形態の内容】 対話議論型：講師からの発問による対話、学生間の議論を取り入れた講義 事前学習型：あらかじめ講師が掲示した資料を読み事前に学習し、実践を中心とした講義。 調査学習型：問題解決のため、インターネットや関連書籍を自らが調査し、学んでいく講義。			

れいわ ねんど
令和 7 年度シラバス

れいわ ねんど 令和 7 年度シラバス				たんとくきょういん 担当教員		じつむけいけん 実務経験	
				吉川 洋平		○	
				影山 正幸		○	
たいしょうがつか 対 象 学 科	■IG □AI ■GS □BD □GB □IL						
かもくめい 科 目 名	アプリケーション開発実習b						
ねんじ 年 次	ねん 2年	かいこうき 開講期	だい き 第2期	くぶん 区 分	ひつしゅう せんたく ひつせん ■必修□選択□必選	じゅぎょうじすう 授 業 時 数	じかん 54 時間
じゅぎょう 授 業 とうたつむくひょう 到達目標	(さいしゅうきじゅぎょう とうたつむくひょう) 【最終期授 業の到達目標】 じぶん きかく せいさく (プログラミング) できるようになる。 (とう きじゅぎょう とうたつむくひょう) 【当期授 業の到達目標】 オリジナルシステムの企画書・設計書を作成し、開発の前準備をおこなう。また、開発スケジュールに基づき開発をスタートする。その中で問題解決能力を身につける。						
じゅぎょうがいよう 授 業 概 要	システム開発経験を有する教員から設計とプログラミングに対する知識を説明する。様々なツールなども利用しつつ実際にシステムを制作できる能力を身につける。						
じゅぎょう 授 業 の うんえいほうほう 運 営 方 法	じっしゅうおよびしつぎおうとう 実 習 及 び 質 疑 応 答						
たんとくきょういん 担 当 教 員 からの めっせーじ メッセー ジ	さまざまなアイデアを出し、それを実現するためにはどうしたらいいのか。常に色々考え続けて授 業に参加すること。また、発生した問題を自分で解決する能力を身につけること(インターネットで検索する/他者へ相談するなど)。						
りかいど 理 解 度 てすと テ ス ト	じゅぎょうごと りかいど てすと かだい ていしゅつ 授 業 毎 に、理 解 度 テ ス ト、課 題 を 提 出。						
ていきしけん 定 期 試 験	【受験資格】出席率70%以上の学生 【試験方法】課題制作による試験						
せいせきひょうか 成 績 評 価 の ほうほう きじゅん 方 法 ・ 基 準	ほんこう せいせきひょうかきじゅん もとづき とうたつむくひょうたっせいど つぎ ほうほう ひょうか 本校の成績評価基準に基づき、到達目標達成度を次の方法で評価。 ・定期試験 50% ・平常点 (授 業態度や演習への取り組み) 10% ・理解度テスト 40%						
オフィス アワー	ほうかご めー べー す たいめん たいおう ただし じぜん つごう かくにん 放課後、メールベースあるいは対面にて対応。但し、事前に都合を確認のこと。						
きょうざい 教 材	なし						
さんこうしょ 参 考 書							

科目名	アプリケーション開発実習b	担当教員	吉川・影山
授 業 計 画			
回数	授業内容	ALの形態	授業の狙い
1しゅうめ 1週目	オリジナル作品企画① (各自アイデアを検討・企画書作成)	対話・議論型 調査学習型	作品制作を通して開発スキルとコミュニケーションスキルを身につける 課題解決する能力を身につける
2しゅうめ 2週目	オリジナル作品企画② (企画書・概要設計書作成)	対話・議論型 調査学習型	
3しゅうめ 3週目	オリジナル作品企画③ (プレゼン資料作成)	対話・議論型 調査学習型	
4しゅうめ 4週目	作品制作① (システム開発：プログラミング・DB作成)	対話・議論型 調査学習型	
5しゅうめ 5週目	作品制作② (システム開発：プログラミング・DB管理)	対話・議論型 調査学習型	
6しゅうめ 6週目	作品制作③ (システム開発：プログラミング・DB管理)	対話・議論型 調査学習型	
7しゅうめ 7週目	作品制作④ (システム開発：プログラミング・DB管理)	対話・議論型 調査学習型	
8しゅうめ 8週目	発表準備/プレゼンテーション/実演	プレゼンテーション	他者のアイデアなどを聞き、今後の参考とする
9しゅうめ 9週目	フィードバック	調査学習型	反省点をまとめる
【AL形態の内容】 対話議論型：講師からの発問による対話、学生間の議論を取り入れた講義 事前学習型：あらかじめ講師が掲示した資料を読み事前に学習し、実践を中心とした講義。 調査学習型：問題解決のため、インターネットや関連書籍を自らが調査し、学んでいく講義。			

れいわ ねんど
令和 7 年度シラバス

れいわ ねんど 令和 7 年度シラバス				たんとくきょういん 担当教員		じつむけいけん 実務経験	
				吉川 洋平		○	
				花島 恒登		○	
たいしょうがつか 対象学科	■IG □AI ■GS □BD □GB □IL						
かもくめい 科目名	アプリケーション開発実習c						
ねんじ 年次	ねん 2年	かいこうき 開講期	だい き 第3期	くぶん 区分	ひつしゅう せんたく ひつせん ■必修□選択□必選	じゅぎょうじすう 授業時数	じかん 144 時間
じゅぎょう 授業 とうたつむくひょう 到達目標	(さいしゅうきじゅぎょう とうたつむくひょう) 【最終期授業の到達目標】 自分が企画したシステムを制作（プログラミング）できるようになる。 (とうきじゅぎょう とうたつむくひょう) 【当期授業の到達目標】 オリジナルシステムの企画書・設計書を作成し、それに基づいてチームで連携をとりつつ開発することができるようになる。その中で問題解決能力とコミュニケーション能力を身につける。システムのいくつかの機能が完成する。						
じゅぎょうがいよう 授業概要	システム開発経験を有する教員から設計とプログラミングに対する知識を説明する。様々なツールなども利用しつつ実際にシステムを制作できる能力を身につける。						
じゅぎょう 授業の うんえいほうほう 運営方法	じっしゅうおよびしつぎおうとう 実習及び質疑応答						
たんとくきょういん 担当教員 からの めっせーじ メッセージ	さまざまなアイデアを出し、それを実現するためにはどうしたらいいのか。常に色々考え続けて授業に参加すること。また、発生した問題を自分で解決する能力を身につけること(インターネットで検索する/他者へ相談するなど)。						
りかいど 理解度 テスト	授業毎に、理解度テスト、課題を提出。						
ていきしけん 定期試験	【受験資格】出席率70%以上の学生 【試験方法】課題制作による試験						
せいせきひょうか 成績評価 の ほうほう きじゅん 方法・基準	ほんこう せいせきひょうかきじゅん もとづき とうたつむくひょうたっせいど つぎ ほうほう ひょうか 本校の成績評価基準に基づき、到達目標達成度を次の方法で評価。 ・定期試験 50% ・平常点（授業態度や演習への取り組み）10% ・理解度テスト 40%						
オフィス アワー	ほうかご めーるべーすあるいは対面にて対応。但し、事前に都合を確認のこと。						
きょうざい 教材	なし						
さんこうしょ 参考書							

科目名	アプリケーション開発実習c	担当教員	吉川・花島
授業計画			
回数	授業内容	ALの形態	授業の狙い
1しゅうめ 1週目	作品制作① (詳細設計書作成)	対話・議論型 調査学習型	作品制作を通して開発スキルとコミュニケーションスキルを身につける 課題解決する能力を身につける
2しゅうめ 2週目	作品制作② (プログラミング・DB作成・設計書管理)	対話・議論型 調査学習型	
3しゅうめ 3週目	作品制作③ (プログラミング・DB管理・設計書管理)	対話・議論型 調査学習型	
4しゅうめ 4週目	作品制作④ (プログラミング・DB管理・設計書管理)	対話・議論型 調査学習型	
5しゅうめ 5週目	作品制作⑤ (プログラミング・DB管理・設計書管理)	対話・議論型 調査学習型	
6しゅうめ 6週目	作品制作⑥ (プログラミング・DB管理・設計書管理)	対話・議論型 調査学習型	
7しゅうめ 7週目	作品制作⑦ (プログラミング・DB管理・設計書管理)	対話・議論型 調査学習型	
8しゅうめ 8週目	発表準備/プレゼンテーション/実演	プレゼンテーション	他者のアイデアなどを聞き、今後の参考とする
9しゅうめ 9週目	フィードバック	調査学習型	反省点をまとめる
【AL形態の内容】 対話議論型：講師からの発問による対話、学生間の議論を取り入れた講義 事前学習型：あらかじめ講師が提示した資料を読み事前に学習し、実践を中心とした講義。 調査学習型：問題解決のため、インターネットや関連書籍を自らが調査し、学んでいく講義。			

れいわ ねんど
令和 7 年度シラバス

れいわ ねんど 令和 7 年度シラバス				たんとくきょういん 担当教員		じつむけいけん 実務経験	
				吉川 洋平		○	
				花島 恒登		○	
たいしょうがつか 対 象 学 科	■IG □AI ■GS □BD □GB □IL						
かもくめい 科 目 名	アプリケーション開発実習d						
ねんじ 年 次	ねん 2年	かいこうき 開講期	だい き 第4期	くぶん 区 分	ひつしゅう せんたく ひつせん ■必修□選択□必選	じゅぎょうじすう 授 業 時 数	じかん 144 時間
じゅぎょう 授 業 とうたつむくひょう 到達目標	(さいしゅうきじゅぎょう とうたつむくひょう) 【最終期授 業の到達目標】 じぶんが企画したシステムを制作（プログラミング）できるようになる。 (とうきじゅぎょう とうたつむくひょう) 【当期授 業の到達目標】 オリジナルシステムを完成させる。また、システムの品質を高めるスキルを身につける。 もんだいかいけつのもんたい のうりよく せいさく のうりよく み 問題解決能力とコミュニケーション能力を身につける。						
じゅぎょうがいよう 授 業 概 要	システム開発経験を有する教員から設計とプログラミングに対する知識を説明する。様々なツールなども利用しつつ実際にシステムを制作できる能力を身につける。						
じゅぎょう 授 業 の うんえいほうほう 運 営 方 法	じっしゅうおよびしつぎおうとう 実 習 及 び 質 疑 応 答						
たんとくきょういん 担 当 教 員 からの めっせーじ メッセー ジ	さまざまなアイデアを出し、それを実現するためにはどうしたらいいのか。常に色々考え続けて授業に参加すること。また、発生した問題を自分で解決する能力を身につけること(インターネットで検索する/他者へ相談するなど)。						
りかいど 理 解 度 てすと テ ス ト	じゅぎょうごと りかいど てすと かだい ていしゆつ 授 業 毎 に、理 解 度 テ ス ト、課 題 を 提 出。						
ていきしけん 定 期 試 験	(じゅけんしかく) しゅつせきりつ70% いじょう がくせい 【受験資格】出席率70%以上の学生 (しけんほうほう) かだいせいさく しけん 【試験方法】課題制作による試験						
せいせきひょうか 成 績 評 価 の ほうほう きじゆん 方 法 ・ 基 準	ほんこう せいせきひょうか きじゆん もとづき とうたつむくひょう たっせいど つぎ ほうほう ひょうか 本校の成績評価基準に基づき、到達目標達成度を次の方法で評価。 ・定期試験 50% ・平常点（授業態度や演習への取り組み）10% ・理解度テスト 40%						
オフィス アワー	ほうかご めーるべーす あるいは たいめん たいおう ただし じぜん つごう かくにん 放課後、メールベースあるいは対面にて対応。但し、事前に都合を確認のこと。						
きょうざい 教 材	なし						
さんこうしょ 参 考 書							

科目名	アプリケーション開発実習d	担当教員	吉川・花島
授業計画			
回数	授業内容	ALの形態	授業の狙い
1回目 1週目	作品制作① (テスト仕様書作成)	対話・議論型 調査学習型	作品制作を通して開発スキルとコミュニケーションスキルを身につける 課題解決する能力を身につける 品質向上を目指す
2回目 2週目	作品制作② (プログラミング・DB管理・設計書管理)	対話・議論型 調査学習型	
3回目 3週目	作品制作③ (プログラミング・DB管理・設計書管理)	対話・議論型 調査学習型	
4回目 4週目	作品制作④ (プログラミング・DB管理・設計書管理)	対話・議論型 調査学習型	
5回目 5週目	作品制作⑤ (プログラミング・DB管理・設計書管理)	対話・議論型 調査学習型	
6回目 6週目	作品制作⑥ (プログラミング・DB管理・設計書管理)	対話・議論型 調査学習型	
7回目 7週目	作品制作⑦ (プログラミング・DB管理・設計書管理)	対話・議論型 調査学習型	
8回目 8週目	発表準備/プレゼンテーション/実演	プレゼンテーション	他者のアイデアなどを聞き、今後の参考とする
9回目 9週目	フィードバック	調査学習型	反省点をまとめる
【AL形態の内容】 対話議論型：講師からの発問による対話、学生間の議論を取り入れた講義 事前学習型：あらかじめ講師が提示した資料を読み事前に学習し、実践を中心とした講義。 調査学習型：問題解決のため、インターネットや関連書籍を自らが調査し、学んでいく講義。			

れいわ ねんど 令和 7 年度シラバス				たんとうきょういん 担当教員	じつむけいけん 実務経験		
				花島 恒登	○		
たいしょうがつか 対 象 学 科	■IG □AI ■GS □BD □GB □IL						
かもくめい 科 目 名	Linux 実習 a						
ねんじ 年 次	ねん 2 年	かいこうき 開講期	だい き 第3期	くぶん 区分	ひつしゅう せんたく ひつせん □必修■選択□必選	じゅぎょうじすう 授 業 時 数	じかん 36 時間
じゅぎょう 授 業 とうたつもくひょう 到達目標	【最終期授業の到達目標】 ネットワークに関する知識を身につける。さらに、自らでネットワーク・Webサーバを構築できるようになる。 【当期授業の到達目標】 ネットワークサーバ構築のためにLinuxを利用する。Linuxのインストールをはじめ、利用方法や特徴を学び、Linuxの基本操作ができるようになる。						
じゅぎょうがいよう 授業概要	システム開発経験を有する教員が例も挙げながら説明する。その後、実際に自分たちで実習を実施する。実習を通して技術を習得する。						
じゅぎょう 授業の うんえいほうほう 運営方法	講義と実習及び質疑応答。						
たんとうきょういん 担当教員	積極的に授業に参加すること。						
からの メッセージ	周りの学生と教えあい、互いに切磋琢磨すること。 疑問があれば、自ら積極的に解決方法を模索すること。						
りかいど 理解度テスト、 かだいとう 課題等	授業中に課題を提出。後日 コメントやアドバイスを付け返却する。						
ていきしけん 定期試験	【受験資格】出席率70%以上の学生						
せいせきひょうか 成績評価の ほうほう きじゆん 方法・基準	本校の成績評価基準に基づき、到達目標達成度を次の方法で評価する。 ・定期試験 50% ・理解度テスト40% ・平常点10%						
オフィス アワー	授業後教室。またはメールにて空き時間の確認後、教室にて対応。						
きょうざい 教 材	なし						
さんこうしょ 参考書	『Linux標準教科書』(PDF)LPI-Japan事務局 発行 無料 『最短突破 Linuxレベル1 バージョン10.0合格教本』河原木 忠司 著 技術評論社 価格3,960円						

科目名	Linux実習a	担当教員	花島
授 業 計 画			
回数	授 業 内 容	AL の形態	授 業 の狙い
1 週目	Linux を学ぶ	事前学習型	Linux の基礎知識を身につける。 Linuxのインストール、基本的な操作方法、各種設定の方法を学ぶ。
2 週目	VirtualBox のインストールと仮想マシンの作成	事前学習型	
3 週目	Linux のインストールと設定	事前学習型	
4 週目	Linux を操作してみよう	事前学習型	
5 週目	基本的なコマンド①	事前学習型	
6 週目	基本的なコマンド②	事前学習型	
7 週目	標準入出力とフィルタコマンド	事前学習型	
8 週目	総復習		Linuxの基礎知識の定着を確認する。
	定期試験		
9週目	期末テスト内容の解説	調査学習	
事前学習型：事前に資料を配布。配布された資料を読んで授業に臨む。資料の内容について質疑応答を実施したのち、実習をおこない定着を図る。 調査学習：期末テストで自ら不明な部分をインターネットや授業資料から調べ理解を深める。			

れいわ ねんど
令和 7 年度シラバス

れいわ ねんど 令和 7 年度シラバス				たんとうきょういん 担当教員		じつむけいけん 実務経験	
				花島 恒登		○	
たいしょうがつか 対 象 学 科	■IG □AI ■GS □BD □GB □IL						
かもくめい 科目名	Linux 実習 b						
ねんじ 年次	ねん 2 年	かいこうき 開講期	だい き 第4期	くぶん 区分	ひつしゅう せんたく ひつせん □必修■選択□必選	じゅぎょうじすう 授 業 時 数	じかん 36 時間
じゅぎょう 授業 とうたつむくひょう 到達目標	【最終期授業の到達目標】 ネットワークに関する知識を身につける。さらに、自 らでネットワーク・Webサーバを構築 できるようになる。 【当期授業の到達目標】 ネットワークサーバ構築のためにLinuxを利用する。Linuxのインストールをはじめ、利用 方法や特徴を学ぶ。Viの使い方や管理者としての操作を理解・実行できるようになる。						
じゅぎょうがいよう 授業概要	システム開発経験を有する教員が例も挙げながら説明する。その後、実際に自分たちで実習 を実施する。実習を通して技術を習得する。						
じゅぎょう 授業の うんえいほうほう 運営方法	講義と実習及び質疑応答。						
たんとうきょういん 担当教員 からの メッセージ	積極的に授業に参加すること。 周りの学生と教えあい、互いに切磋琢磨すること。 疑問があれば、自 ら積極的に解決方法を模索すること。						
りかいど 理解度テスト、 かだいとう 課題等	授業中に課題を提出。後日 コメントやアドバイスをつけ返却する。						
ていきしけん 定期試験	【受験資格】出席率70%以上の学生						
せいせきひょうか 成績評価の ほうほう きじゅん 方法・基準	本校の成績評価基準に基づき、到達目 標達成度を次の方法で評価する。 ・定期試験 50% ・理解度テスト40% ・平常点10%						
オフィス アワー	授業後教室。またはメールにて空き時間の確認後、教室にて対応。						
きょうざい 教 材	なし						
さんこうしょ 参考書	『Linux標準教科書』(PDF)LPI-Japan事務局 発行 無料 『最短突破 LinuCレベル1 バージョン10.0合格教本』河原木 忠司 著 技術評論社 価格3,960円						

科目名	Linux実習b	担当教員	花島
授 業 計 画			
回数	授 業 内 容	AL の形態	授 業 の狙い
1 週目	vi エディタ	事前学習型	Linuxを更に使いこなすための知識や技術を習得する
2 週目	ユーザーとグループの管理	事前学習型	
3 週目	ファイルやディレクトリのアクセス制御	事前学習型	
4 週目	ネットワークの設定と管理	事前学習型	
5 週目	ネットワーク設定と管理	事前学習型	
6 週目	プロセス管理	事前学習型	
7 週目	腕試しの課題とまとめ	事前学習型	
8 週目	総復習		知識の定着を確認する
	定期試験		
9 週目	期末テスト内容の解説	調査学習	
事前学習型：事前に資料を配布。配布された資料を読んで授業に臨む。資料の内容について質疑応答を実施したのち、実習をおこない定着を図る。 調査学習：期末テストで自ら不明な部分をインターネットや授業資料から調べ理解を深める。			

れいわ ねんど
令和 7 年度シラバス

				たんとくきょういん 担当教員		じつむけいけん 実務経験	
				渡部 雄三		○	
たいしょうがつか 対象学科	☒ IG ☐ AI ☐ GS ☐ BD ☐ GB ☐ IL						
かめくめい 科目名	がいろん AI概論a						
ねんじ 年次	ねん 2年	かいこうき 開講期	だい き 第3期	くぶん 区分	ひっしゅう せんたく ひつせん ☐ 必修 ☒ 選択 ☐ 必選	じゅぎょうじすう 授業時数	じかん 18 時間
じゅぎょう 授業 とうたつもくひょう 到達目標	(さいしゅうきじゅぎょう とうたつもくひょう) 【最終期授業の到達目標】 AIの基礎から、数学的な基礎知識まで学習し、AI分野の広い知識を身につける。 (とうきじゅぎょう とうたつもくひょう) 【当期授業の到達目標】 AIの概要、AIの歴史、AI分野の課題、AIの関連知識、機械学習の知識を身につける。						
じゅぎょうがいよう 授業概要	- AIの歴史や理論について学修する。 - AIシステムが世の中でどのように活用されてるかを学修する。						
じゅぎょう 授業の うんえいほうほう 運営方法	授業で学ぶ分野の重要用語に関連する問題等を事前に提示。WEBや資料で予習して授業に臨む。授業では、重要項目の説明とともに、問題の解説を実施。事前課題については、教員から指示があれば説明できるように学習して授業に出席すること。						
たんとくきょういん 担当教員 からの メッセージ	当科目は、サーティファイAI検定合格のために必須であるだけでなく、社会に出て仕事をする上ですぐに必要となる知識を幅広く学ぶものです。今後、学習を進めて行く上で、必須の知識となりますので、体系的に理解しましょう。						
りかいど 理解度 テスト	授業毎に、理解度テスト、課題を提出。						
ていきしけん 定期試験	【受験資格】 出席率70%以上の学生 【試験方法】 定期試験（筆記またはFormによる試験）						
せいせきひょうか 成績評価 の ほうほう 基準 方法・基準	本校の成績評価基準に基づき、到達目標達成度を次の方法で評価。 - 定期試験 50% - 平常点（授業態度や演習への取り組み） 10% - 理解度テスト 40%						
オフィス アワー	放課後、メールベースあるいは対面にて対応。但し、事前に都合を確認のこと。						
きょうざい 教材	なし						
さんこうしょ 参考書							

かもくめい 科目名	がいろん AI概論a	たんとうきょういん 担当教員	渡部
じゅぎょうけいかく 授 業 計 画			
かいすう 回数	じゅぎょうないよう 授 業 内 容	けいたい AL の形態	じゅぎょうねらい 授 業 の 狙 い
1しゅうめ 1 週 目	ガイダンス AI の概要 (AI の定義、AI の研究範囲など)	事前学習型	AIの知識を身につけて、 AIを活用できるようにする
2しゅうめ 2 週 目	AIの歴史、様々なAIとこれからのAI (第1次～第4次AIブーム、ボードゲームAIなど)	事前学習型	
3しゅうめ 3 週 目	AI分野の課題 (トイ・プロブレム、フレーム問題など)	事前学習型	
4しゅうめ 4 週 目	AIの関連知識 (ビックデータ、クラウドサービスなど)	事前学習型	
5しゅうめ 5 週 目	機械学習の概要 (教師あり学習、教師なし学習)	事前学習型	
6しゅうめ 6 週 目	機械学習の概要 (強化学習、データの重要性)	事前学習型	
7しゅうめ 7 週 目	総復習 (これまでの課題を復習する)	事前学習型	
8しゅうめ 8 週 目	復習及び定期試験		AI知識の理解度を確認する
9しゅうめ 9 週 目	定期試験内容の解説		AI知識を定着させる
【AL形態の内容】 事前学習型授業: 授業で学ぶ分野の重要用語に関連する過去問題等を事前に提示。WEBや資料で予習して授業に臨む。			

れいわ ねんど
令和 7 年度シラバス

				たんとくきょういん 担当教員		じつむけいけん 実務経験	
				渡部 雄三		○	
たいしょうがつか 対象学科	■IG □AI □GS □BD □GB □IL						
かもくめい 科目名	がいろん AI概論b						
ねんじ 年次	ねん 2年	かいこうき 開講期	だい き 第4期	くぶん 区分	ひっしゅう せんたく ひつせん ☐ 必修 ☒ 選択 ☐ 必選	じゅぎょうじすう 授業時数	じかん 18 時間
じゅぎょう 授業 とうたつもくひょう 到達目標	(さいしゅうきじゅぎょう とうたつもくひょう) 【最終期授業の到達目標】 AIの基礎から、数学的な基礎知識まで学習します。 (とうきじゅぎょう とうたつもくひょう) 【当期授業の到達目標】 深層学習の概要、深層学習の種類、産業への応用、AI社会の実現に向けて、知的財産の保護、基礎数学の知識を身につけます。						
じゅぎょうがいよう 授業概要	- AIの歴史や理論について学修します。 - AIシステムが世の中でどのように活用されてるかを学修します。						
じゅぎょう 授業の うんえいほうほう 運営方法	授業で学ぶ分野の重要用語に関連する問題等を事前に提示。WEBや資料で予習して授業に臨む。授業では、重要項目の説明とともに、問題の解説を実施。事前課題については、教員から指示があれば説明できるように学習して授業に出席すること。						
たんとくきょういん 担当教員 からの メッセージ	当科目は、サーティファイAI検定合格のために必須であるだけでなく、社会に出て仕事をする上ですぐに必要となる知識を幅広く学ぶものです。今後、学習を進めて行く上で、必須の知識となりますので、体系的に理解しましょう。						
りかいど 理解度 テスト	授業毎に、理解度テスト、課題を提出。						
ていきしけん 定期試験	【受験資格】出席率70%以上の学生 【試験方法】定期試験（筆記またはFormによる試験）						
せいせきひょうか 成績評価 の ほうほう 基準 方法・基準	本校の成績評価基準に基づき、到達目標達成度を次の方法で評価。 - 定期試験 50% - 平常点（授業態度や演習への取り組み）10% - 理解度テスト 40%						
オフィス アワー	放課後、メールベースあるいは対面にて対応。但し、事前に都合を確認のこと。						
きょうざい 教材	なし						
さんこうしょ 参考書							

科目名	AI概論b	担当教員	渡部
授業計画			
回数	授業内容	ALの形態	授業の狙い
1 1 週目	深層学習の概要① (深層学習の概要、ニューロン間の重みなど)	事前学習型	課題を通してAIの知識を身につける。
2 2 週目	深層学習の概要② (ブラックボックス問題、過学習と汎化性能など)	事前学習型	
3 3 週目	深層学習の種類 (CNN、RNN、Transformer、GANなど)	事前学習型	
4 4 週目	産業への応用、AI社会の実現に向けて (AIの利用動向：製造業、自動運転など)	事前学習型	
5 5 週目	知的財産の保護 (知的財産に関する法律、著作権法、特許法など)	事前学習型	
6 6 週目	基礎数学 (順列、組合せ、事象の確率、確率の基本性質など)	事前学習型	
7 7 週目	総復習 (これまでの課題を復習する)	事前学習型	
8 8 週目	復習及び定期試験		AI知識の理解度を確認する
9 9 週目	定期試験内容の解説		AI知識を定着させる
【AL形態の内容】 事前学習型授業：授業で学ぶ分野の重要用語に関連する過去問題等を事前に提示。WEBや資料で予習して授業に臨む。			

れいわ ねんど
令和 7 年度シラバス

				たんとうきょういん 担当教員		じつむけいけん 実務経験	
				渡部 雄三		○	
たいしょうがつか 対象学科	■IG □AI □GS □BD □GB □IL						
かもくめい 科目名	せんたん ぎじゆつけんきゆう 先端IT技術研究a						
ねんじ 年次	ねん 2年	かいこうき 開講期	だい き 第3期	くぶん 区分	ひっしゅう せんたく ひつせん □必修■選択□必選	じゆぎょうじすう 授業時数	じかん 18 時間
じゆぎょう 授業 とうたつむくひょう 到達目標	(さいしゅうきじゆぎょう とうたつむくひょう) 【最終期授業の到達目標】 さまざま せんたん ぎじゆつ かいさい さいしん ぎじゆつ まな 様々な先端IT技術に触れる（開催時の最新の技術を学ぶ） とう きじゆぎょう とうたつむくひょう 【当期授業の到達目標】 AI・ビッグデータを活用して、データマーケティングを行う。 みづか ちから かだい ぶんせき おこな かだい かいけつ ちから み 自らの力で課題をあげてデータ分析を行い、課題を解決する力を身につける。						
じゆぎょうがいよう 授業概要	じよう ちくせき インターネット上に蓄積されているデータを収集・整頓・分析して、顧客ニーズに合ったプロモーションや商品企画につながる戦略を考える						
じゆぎょう 授業の うんえいほうほう 運営方法	じゆぎょう まなぶぶんや じゆうようようご かんれん もんだいなど じぜん ていじ WEB しりょう よしゅう じゆぎょう のぞ 授業で学ぶ分野の重要用語に関連する問題等を事前に提示。WEBや資料で予習して授業に臨む。授業では、重要項目の説明とともに、問題の解説を実施。事前課題については、教員から指示があれば説明できるように学習して授業に出席すること。						
たんとうきょういん 担当教員 からの めっせーじ メッセージ	とうかもく しゃかい で てしごと うえ ひつよう ちしき はばひろくまなぶ こんご 当科目は、社会に出て仕事をする上ですぐに必要となる知識を幅広く学ぶものです。今後、学習を進めて行く上で、必須の知識となりますので、体系的に理解しましょう。						
りかいど 理解度 テスト	じゆぎょうごと かりかいど てすと かだい ていしゆつ 授業毎に、理解度テスト、課題を提出。						
ていきしけん 定期試験	(じゆけんしかく) しゆつせきりつ70 いじょう がくせい 【受験資格】出席率70%以上の学生 (しけんほうほう) かだいていしゆつ 【試験方法】課題提出（プレゼンテーション）						
せいせきひょうか 成績評価 の ほうほう きじゆん 方法・基準	ほんこう せいせきひょうかきじゆん もとづき とうたつむくひょうたつせいで つぎ ほうほう ひょうか 本校の成績評価基準に基づき、到達目標達成度を次の方法で評価。 - 定期試験 50% - 平常点（授業態度や演習への取り組み）10% - 理解度テスト 40%						
オフィス アワー	ほうかご めーるべーす たいめん たいおう ただし じぜん つごう かくにん 放課後、メールベースあるいは対面にて対応。但し、事前に都合を確認のこと。						
きょうざい 教材	なし						
さんこうしょ 参考書	- Python2年生 スクレイピングのしくみ 体験してわかる！会話でまなべる！ (出版社：翔泳社) - Python2年生 データ分析のしくみ 体験してわかる！会話でまなべる！ (出版社：翔泳社)						

科目名	先端IT技術研究a	担当教員	渡部
授 業 計 画			
回数	授業内容	AL の形態	授業の狙い
1 1 週目	データマーケティングテーマ (チーム結成、各自テーマを検討・企画書作成)	対話・議論型 調査学習型	作品制作を通して分析スキルとコミュニケーションスキルを身につける 課題解決する能力を身につける
2 2 週目	スクレイピングを学習する① (データダウンロード・HTML解析・表データ読書き)	対話・議論型 調査学習型	
3 3 週目	スクレイピングを学習する② (オープンデータ分析・Web APIでデータ収集)	対話・議論型 調査学習型	
4 4 週目	データ分析のしくみを学習する① (データ前処理・代表値・グラフ)	対話・議論型 調査学習型	
5 5 週目	データ分析のしくみを学習する② (正規分布・相関係数)	対話・議論型 調査学習型	
6 6 週目	データを収集して分析する	対話・議論型 調査学習型	
7 7 週目	データを収集して分析結果をまとめる	対話・議論型 調査学習型	
8 8 週目	発表準備/プレゼンテーション/実演	プレゼンテーション	他者のアイディアなどを聞き、今後の参考とする
9 9 週目	フィードバック	調査学習型	反省点をまとめる
【AL形態の内容】 対話議論型：講師からの発問による対話、学生間の議論を取り入れた講義 事前学習型：あらかじめ講師が掲示した資料を読み事前に学習し、実践を中心とした講義。 調査学習型：問題解決のため、インターネットや関連書籍を自らが調査し、学んでいく講義。			

れいわ ねんど
令和 7 年度シラバス

				たんとくきょういん 担当教員		じつむけいけん 実務経験	
				渡部 雄三		○	
たいしょうがつか 対象学科	■IG □AI □GS □BD □GB □IL						
かもくめい 科目名	せんたん ぎじゅつけんきゅう 先端IT技術研究b						
ねんじ 年次	ねん 2年	かいこうき 開講期	だい き 第4期	くぶん 区分	ひっしゅう せんたく ひつせん ☐ 必修 ☒ 選択 ☐ 必選	じゅぎょうじすう 授業時数	じかん 18 時間
じゅぎょう 授業 とうたつむくひょう 到達目標	(さいしゅうきじゅぎょう とうたつむくひょう) 【最終期授業の到達目標】 さまざま せんたん ぎじゅつ ちふ 様々な先端IT技術に触れる (開催時の最新の技術を学ぶ) とう きじゅぎょう とうたつむくひょう 【当期授業の到達目標】 ChatGPTをかつようして、AIプログラミングをせいさくする。 みずか ちから かだい かいけつ ちから み 自らの力で課題をあげて課題を解決する力を身につける。						
じゅぎょうがいよう 授業概要	ChatGPTを使用して、AIプログラミングを開発する力を身につける。はじめに例題プログラムを作成し、最終的には独自のプログラムを制作する。						
じゅぎょう 授業の うんえいほうほう 運営方法	じゅぎょう まなぶぶんや じゅうようようご かんれん もんだいなど じぜん ていじ WEB しりょう よしゅう じゅぎょう のぞ 授業で学ぶ分野の重要用語に関連する問題等を事前に提示。WEBや資料で予習して授業に臨む。授業では、重要項目の説明とともに、問題の解説を実施。事前課題については、教員から指示があれば説明できるように学習して授業に出席すること。						
たんとくきょういん 担当教員 からの めっせーじ メッセージ	とうかもく しゃかい で てしごと うえ ひつよう ちしき はばひろくまなぶ こんご 当科目は、社会に出て仕事をする上ですぐに必要となる知識を幅広く学ぶものです。今後、学習を進めて行く上で、必須の知識となりますので、体系的に理解しましょう。						
りかいど 理解度 テスト	じゅぎょうごと りかいど てすと かだい ていしゅつ 授業毎に、理解度テスト、課題を提出。						
ていきしけん 定期試験	(じゅけんしかく) しゅつせきりつ70 いじょう がくせい 【受験資格】 出席率70%以上の学生 (しけんほうほう) かだいていしゅつ 【試験方法】 課題提出 (プレゼンテーション)						
せいせきひょうか 成績評価 の ほうほう きじゅん 方法・基準	ほんこう せいせきひょうかきじゅん もとづき とうたつむくひょうたつせいで つぎ ほうほう ひょうか 本校の成績評価基準に基づき、到達目標達成度を次の方法で評価。 ・定期試験 50% ・平常点 (授業態度や演習への取り組み) 10% ・理解度テスト 40%						
オフィス アワー	ほうかご めーるべーす たいめん たいおう ただし じぜん つごう かくにん 放課後、メールベースあるいは対面にて対応。但し、事前に都合を確認のこと。						
きょうざい 教材	なし						
さんこうしょ 参考書	・ ChatGPTプログラミング1年生 Python・アプリ開発で活用するしくみ 体験してわかる！会話 でまなべる！ (出版社：翔泳社)						

科目名	先端IT技術研究b	担当教員	渡部
授 業 計 画			
回数	授 業 内 容	AL の形態	授 業 の狙い
1 週 目	ChatGPT プログラミングとは (ChatGPT を使ってみよう)	対話・議論型 調査学習型	作品制作を通して分析スキルとコミュニケーションスキルを身につける 課題解決する能力を身につける
2 週 目	ChatGPTプログラミング① (自動翻訳アプリを作ってみよう)	対話・議論型 調査学習型	
3 週 目	ChatGPTプログラミング② (文章校正アプリ・文体・文調変換アプリ)	対話・議論型 調査学習型	
4 週 目	ChatGPTプログラミング③ (メール調整アプリ・昔話自動生成アプリ)	対話・議論型 調査学習型	
5 週 目	ChatGPTプログラミング④ (ゲームのストーリー生成アプリ)	対話・議論型 調査学習型	
6 週 目	オリジナルChatGPTプログラムを考えよう	対話・議論型 調査学習型	
7 週 目	オリジナルChatGPTプログラムの制作	対話・議論型 調査学習型	
8 週 目	発表準備/プレゼンテーション/実演	プレゼンテーション	他者のアイディアなどを聞き、今後の参考とする
9 週 目	フィードバック	調査学習型	反省点をまとめる
【AL形態の内容】 対話議論型：講師からの発問による対話、学生間の議論を取り入れた講義 事前学習型：あらかじめ講師が掲示した資料を読み事前に学習し、実践を中心とした講義。 調査学習型：問題解決のため、インターネットや関連書籍を自らが調査し、学んでいく講義。			

れいわ ねんど
令和 7 年度シラバス

れいわ ねんど 令和 7 年度シラバス				たんとくきょういん 担当教員		じつむけいけん 実務経験	
				渡部 雄三		○	
たいしょうがつか 対 象 学 科	■IG ■AI □GS □BD □GB □IL						
かもくめい 科 目 名	しかくたいさくえんしゅう 資格対策演習a						
ねんじ 年 次	ねん 2年	かいこうき 開講期	だい き 第1期	くぶん 区 分	ひつしゅう せんたく ひつせん □必修■選択□必選	じゅぎょうじすう 授 業 時 数	じかん 36時間
じゅぎょう 授 業 とうたつむくひょう 到達目標	（がいししゅうきじゅぎょう とうたつむくひょう） 【最終期授 業の到達目 標】 情 報 技 術 者 として必要とされる、知識、技能、活用能力の基本を身に着け、高度IT人材と して活躍できるようになる。 （とうきじゅぎょう とうたつむくひょう） 【当期授 業の到達目 標】 過去問題を繰り返し実施。基本情 報 技 術 者 試験の合格点を取れるようになる。						
じゅぎょうがいよう 授 業 概 要	ITけいじつむけいけんしや こうど IT じんざい ひつよう きほんてきちしき ぎのう かつようのうりよく きょうじゅ IT系実務経験者が、高度 IT 人材となるために必要な基本的知識・技能・活用能力を教授 する。試験問題のサンプル、過去問を実際に解きながら、問題のポイントを理解し、必要とさ れる応用力を獲得する。						
じゅぎょう 授 業 の うんえいほうほう 運 営 方 法	しけんもんだい じぜん ていじ WEB しりょう しらべよしゅう じゅぎょう の ぞ み ま す じゅぎょう 試験問題を事前に提示するので、WEB、資料などを調べ学習して授 業に臨みます。授 業では、 さんこうしりょうなど もちい しか こ も ン だ い かんがえかた と き か た かいせつ お こ な い ま す ていじ も ン だ い 参考資料等を用い、その過去の問題の考え方、解き方などの解説を行います。提示された問題 については、各自、回答を準備して授 業に出席してください。						
たんとくきょういん 担 当 教 員 からの め っ せ ー じ メ ー セ ー ジ	とうかもく き ほん じ ょう ほう し ょ り ぎ じ ゅ つ し や し けん ご う かく ひ つ す し や か い で て し ご と 当科目は、基本情 報 処 理 技 術 者 試験合格のために必須であるだけでなく、社会に出て仕事をす る上ですぐに必要なとなる知識を幅広く学ぶものです。今後、学 習を進めて行く上でも使います ので、きちんと体系的に理解するようにしてください。						
り か い ど 理 解 度 て す と テ ス ト	じゅぎょうごと り か い ど て す と じ つ し 授 業毎に、理解度テストを実施する。						
てい き し けん 定 期 試 験	（じゅけんしかく） しゅつせきりつ70 い じ ょう が ぐ せ い 【受験資格】出席率70%以上の学生 （し けん ほう ほう ひ つ き し けん か こ も ン だ い じ ゅ ぎ ょう な い よ う し ゅ つ だ い 【試験方法】筆記試験（過去問題や授 業内容より出題）						
せい せ き ひ ょう か 成 績 評 価 の ほう ほう き じ ゅ ン 方 法 ・ 基 準	ほんこう せい せ き ひ ょう か き じ ゅ ン も と づ き とうたつむくひょうたつせいど つ ぎ ほうほう ひ ょう か 本校の成績評価基準に基づき、到達目 標 達 成 度 を 次の方法で評価する。 ・ てい き し けん 50% 定期試験 ・ へい じ ょう 点 じ ゅ ぎ ょう た い ど えんしゅう と り く み 10% 平常点（授 業 態 度 や 演 習 へ の 取 り 組 み） ・ り か い ど て す と 40% 理解度テスト						
お ふ い す オ フ ィ ス あ わ ー ア ワ ー	ほう か ご め ー ー ベ ー ス た い め ん た い お う た だ し じ ぜん つ ご う か く に ん 放課後、メールベースあるいは対面にて対応します。但し、事前に都合を確認のこと。						
き ょ う ざ い 教 材	なし						
さん こう しょ 参 考 書	I P A じ ょう ほう し ょ り す い し ん き こう じ ょう ほう し ょ り ぎ じ ゅ つ し や し けん か こ も ン だ い ペ ー じ IPA 情 報 処 理 推 進 機 構 情 報 処 理 技 術 者 試験 過去問題のページ https://www.ipa.go.jp/shiken/about/menjo-fe.html						

科目名	資格対策演習a	担当教員	渡部
授業計画			
回数	授業内容	ALの形態	授業の狙い
1しゅうめ 1週目	じゅぎょう すす かた ・授業の進め方について じょうほうし ょりぎじゅつしやし けんたいさく ・情報処理技術者試験対策	はんでんじゅぎょう 反転授業	か こもん から じょうほうし ょり 過去問 から 情報処理 技術者試験に合格すれた めの知識を身につけると ともに、ITの基本知識を 習得する。
2しゅうめ 2週目	じょうほうし ょりぎじゅつしやし けんたいさく ・情報処理技術者試験対策 か こもん れんしゅう かいせつ ・過去問の練習と解説	はんでんじゅぎょう 反転授業	
3しゅうめ 3週目	じょうほうし ょりぎじゅつしやし けんたいさく ・情報処理技術者試験対策 か こもん れんしゅう かいせつ ・過去問の練習と解説	はんでんじゅぎょう 反転授業	
4しゅうめ 4週目	じょうほうし ょりぎじゅつしやし けんたいさく ・情報処理技術者試験対策 か こもん れんしゅう かいせつ ・過去問の練習と解説	はんでんじゅぎょう 反転授業	
5しゅうめ 5週目	じょうほうし ょりぎじゅつしやし けんたいさく ・情報処理技術者試験対策 か こもん れんしゅう かいせつ ・過去問の練習と解説	はんでんじゅぎょう 反転授業	
6しゅうめ 6週目	じょうほうし ょりぎじゅつしやし けんたいさく ・情報処理技術者試験対策 か こもん れんしゅう かいせつ ・過去問の練習と解説	はんでんじゅぎょう 反転授業	
7しゅうめ 7週目	じょうほうし ょりぎじゅつしやし けんたいさく ・情報処理技術者試験対策 か こもん れんしゅう かいせつ ・過去問の練習と解説	はんでんじゅぎょう 反転授業	
8しゅうめ 8週目	ふくしゅうおよ ていきしけん 復習及び定期試験 ていきしけん ないよう かいせつ 定期試験内容の解説	はんでんじゅぎょう 反転授業	か こもん じっさい と 過去問を実際に解く
9しゅうめ 9週目	も ぎ し けん 模擬試験		じつもんだいけいしき しこう 実問題形式で試行する
AL形態の内容 はんでんがくしゅう かんれん か こ ご もんだい じぜん ていじ かくじ もんだい じぜん と い て 反転学習：関連する過去の午後問題を事前に提示し、各自、問題を事前に解いてくること 授業は、解答を学生が説明することも含めて進行する。			

れいわ ねんど
令和 7 年度シラバス

れいわ ねんど 令和 7 年度シラバス				たんとくきょういん 担当教員		じつむけいけん 実務経験	
				渡部 雄三		○	
たいしょうがつか 対象学科	■IG ■AI □GS □BD □GB □IL						
かもくめい 科目名	しかくたいさくえんしゅう 資格対策演習b						
ねんじ 年次	ねん 2年	かいこうき 開講期	だい き 第2期	くぶん 区分	ひつしゅう せんたく ひつせん □必修■選択□必選	じゅぎょうじすう 授業時数	じかん 36時間
じゅぎょう 授業 とうたつむくひょう 到達目標	（がいししゅうきじゅぎょう とうたつむくひょう） 【最終期授業の到達目標】 情報技術者として必要とされる、知識、技能、活用能力の基本を身に付け、高度IT人材として活躍できるようになる。 （とうきじゅぎょう とうたつむくひょう） 【当期授業の到達目標】 過去問題を繰り返し実施。基本情報技術者試験の合格点を取れるようになる。						
じゅぎょうがいよう 授業概要	ITけいじつむけいけんしゃ こうど IT じんざい ひつよう きほんてきちしき ぎのう かつようのうりよく きょうじゅ IT系実務経験者が、高度 IT 人材となるために必要な基本的知識・技能・活用能力を教授 する。試験問題のサンプル、過去問を実際に解きながら、問題のポイントを理解し、必要とさ れる応用力を獲得する。						
じゅぎょう 授業の うんえいほうほう 運営方法	しけんもんだい じぜん ていじ WEB しりょう しらべよしゅう じゅぎょう の ぞ み ます じゅぎょう 試験問題を事前に提示するので、WEB、資料などを調べ学習して授業に臨みます。授業では、 さんこうしりょうなど もちい か こ もんだい かんがえかた と き か た かいせつ お こ ない ます ていじ もんだい 参考資料等を用い、その過去の問題の考え方、解き方などの解説を行います。提示された問題 については、各自、回答を準備して授業に出席してください。						
たんとくきょういん 担当教員 からの めっせーじ メッセージ	とうかもく きほんじょうほうしりぎじゅつしやしけんごうかく ひつす しやかい て し ごと 当科目は、基本情報処理技術者試験合格のために必須であるだけでなく、社会に出て仕事をす る上ですぐに必要なとなる知識を幅広く学ぶものです。今後、学習を進めて行く上でも使います ので、きちんと体系的に理解するようにしてください。						
りかいど 理解度 テスト	じゅぎょうごと りかいど て す と じつし 授業毎に、理解度テストを実施する。						
ていきしけん 定期試験	（じゅけんしかく） しゅつせきりつ70 いじょう がくせい 【受験資格】出席率70%以上の学生 （しけんほうほう） ひつしけん か こ もんだい じゅぎょうないよう しゅつだい 【試験方法】筆記試験（過去問題や授業内容より出題）						
せいせきひょうか 成績評価 の ほうほう きじゅん 方法・基準	ほんこう せいせきひょうか きじゅん もとづき とうたつむくひょうたつせいど つぎ ほうほう ひょうか 本校の成績評価基準に基づき、到達目標達成度を次の方法で評価する。 ・ ていきしけん 50% 定期試験 ・ へいじょうてん じゅぎょうたいど えんしゅう と り く み 10% 平常点（授業態度や演習への取り組み）10% ・ りかいど て す と 40% 理解度テスト 40%						
おふいす あわー アワー	ほうかご め ー ー ベ ー ス たいめん たいおう ただし じぜん つごう かくにん 放課後、メールベースあるいは対面にて対応します。但し、事前に都合を確認のこと。						
きょうざい 教材	なし						
さんこうしょ 参考書	IPA じょうほうしりぎすいしんきこう じょうほうしりぎじゅつしやしけん か こ もんだい ペ ー ジ IPA 情報処理推進機構 情報処理技術者試験 過去問題のページ https://www.jitec.ipa.go.jp/1_04hanni_sukiru/_index_mondai.html						

科目名	資格対策演習b	担当教員	渡部
授業計画			
回数	授業内容	ALの形態	授業の狙い
1回目	授業の進め方について 情報処理技術者試験対策	反転授業	過去問から情報処理技術者試験に合格するための知識を身につけるとともに、ITの基本知識を習得する。
2回目	情報処理技術者試験対策 過去問の練習と解説	反転授業	
3回目	情報処理技術者試験対策 過去問の練習と解説	反転授業	
4回目	情報処理技術者試験対策 過去問の練習と解説	反転授業	
5回目	情報処理技術者試験対策 過去問の練習と解説	反転授業	
6回目	情報処理技術者試験対策 過去問の練習と解説	反転授業	
7回目	情報処理技術者試験対策 過去問の練習と解説	反転授業	
8回目	復習及び定期試験 定期試験内容の解説	反転授業	過去問を実際に解く
9回目	模擬試験		実問題形式で試行する
AL形態の内容			
反転学習：関連する過去の午後問題を事前に提示し、各自、問題を事前に解いてくることが、授業は、解答を学生が説明することも含めて進行する。			

令和 7 年度シラバス

れい わ ね ん ど 令和 7 年度シラバス				たんとうきょういん 担当教員		じつむけいけん 実務経験	
				杷野 恭久		○	
				古屋 嘉昭		○	
たいしょうがつか 対象学科				■IG ■AI ■GS ■BD □GB □IL			
かもくめい 科目名				キャリアデザインⅡa			
ねんじ 年次		ねん 2 年		かいこうき 開講期		だい き 第 1 期	
				くぶん 区分		ひつしゅう せんたく ひっせん □必修■選択□必選	
						じゅぎょうじすう 授業時数	
						じかん 18 時間	
じゅぎょう 授業 とうたつもくひょう 到達目標				【最終期授業の到達目標】 内定獲得に向けて就職活動の流れを理解するとともに、履歴書作成や面接時の応答等について準備を進め、早期の内定獲得を目指す。また、卒業後、社会人生活が円滑に進むよう、仕事をする際に役立つ知識、ノウハウを修得する。 【当期授業の到達目標】 1年生のキャリアデザインで培った就職活動の基礎知識をベースに、実践的なノウハウを身に付け、合同企業説明会や会社説明会に参加する。			
じゅぎょうがいよう 授業概要				授業は就職支援の担当部署であるキャリアセンター職員に加え、企業の採用担当者及び実務経験者が講師となり、実際の、実践的な視点から就職のポイントを理解する。なお、企業の都合を踏まえ、各週のテーマが変更となる場合がある。			
じゅぎょう 授業の うんえいほうほう 運営方法				授業運営に際し、資料（紙）に加え動画を活用してより理解が深まるよう工夫する。受講者は事前課題に取り組むとともに、理解度テストで習熟度を図る。キャリアセンターの職員、企業の採用担当者にも参加いただき、実践的な知識、ノウハウの修得を目指す。			
たんとうきょういん 担当教員 からの メッセージ				1年生のキャリアデザインで培った就職活動のノウハウを活かし、企業の採用試験に応募するため、しっかり準備しましょう。			
りかいど 理解度 テスト				授業毎にFormsによる確認テストを実施する。			
ていきしけん 定期試験				【受験資格】出席率70%以上の学生 【試験方法】筆記試験または「フォームによる試験」			
せいせきひょうか 成績評価 の ほうほう 方法・基準				本校の成績評価基準に基づき、到達目標達成度を次の方法で評価する。 ・定期試験 50% ・平常点（授業態度や演習への取り組み）10% ・理解度テスト 40%			
オフィス アワー				放課後、メールあるいは対面にて対応。但し、事前に都合を確認のこと。			
きょうざい 教材				クラスルームに配布する電子テキスト			
さんこうしょ 参考書				「就職活動がまるごとわかる本」（マイナビ出版） 「こう動く！就職活動オールガイド ’ 25年版」（成美堂出版）			

科目名	キャリアデザインⅡa	担当教員	は の ふるや 杷野・古屋
授 業 計 画			
回数	授 業 内 容	AL の 形 態	授 業 の 狙 い
1 週 目	オリエンテーション		
2 週 目	就職サイトの活用方法をし、サイトに登録し「マイページ」で自己紹介文を掲載する。 合同企業説明会、会社説明会の情報を収集する際のポイントを理解する。（クラスルームに掲載した情報の紹介）	対話議論型 授 業	就職サイトに登録し、 会社説明会や合同企業説明会の情報を収集し、求人を確認して応募する企業を探す。
3 週 目	求人票の見方を理解し、学校宛の求人を確認する。 （クラスルームに掲載した求人情報の紹介）	対話議論型 授 業	
4 週 目	応募する企業を選出し、履歴書・自己紹介書、エントリーシートを作成する①。	対話議論型 授 業	応募に向けて履歴書、自己紹介書、エントリーシートを完成させる。
5 週 目	応募する企業を選出し、履歴書・自己紹介書、エントリーシートを作成する②。	ロールプレイ	
6 週 目	応募する企業に向けて、面接練習をする。	対話議論型 授 業	入室のポイント、自己紹介などの基本を習得する。
7 週 目	合同企業説明会及び会社説明会にエントリーする	対話議論型 授 業	説明会にエントリーする。
8 週 目	定期試験		修得した知識、ノウハウの理解度を確認する。
9 週 目	当学期の授業振り返り及び定期試験の解説	対話議論型 授 業	当学期で学習した内容を振り返り、要点を理解する。
AL形態の内容 対話議論型：講師からの発問による対話、学生間の議論を取り入れた講義 事前学習型：あらかじめ講師が掲示した資料を読み事前に学習し、実践を中心とした講義。 調査学習型：問題解決のため、インターネットや関連書籍を自らが調査し、学んでいく講義。 ロールプレイ：学生に特定の役割を与えて演じさせることを通じ、それぞれの立場の人の考え方を体験的に学ぶ方法。			

れいわ ねんど
令和 7 年度シラバス

たんとうきょういん 担当教員	じつむけいけん 実務経験
杷野 恭久	○
古屋 嘉昭	○

たいしょうがつか 対象学科	■IG ■AI ■GS ■BD □GB □IL						
かもくめい 科目名	キャリアデザインⅡ b						
ねんじ 年次	ねん 2年	かいこうき 開講期	だい き 第2期	くぶん 区分	ひっしゅう せんたく ひっせん □必修■選択□必選	じゅぎょうじすう 授業時数	じかん 18時間
じゅぎょう 授業 とうたつもくひょう 到達目標	【最終期授業の到達目標】 内定獲得に向けて就職活動の流れを理解するとともに、履歴書作成や面接時の応答等について準備を進め、早期の内定獲得を目指す。また、卒業後、社会人生活が円滑に進むよう、仕事をする際に役立つ知識、ノウハウを修得する。 【当期授業の到達目標】 企業から仕事の実際について話を伺い理解を深めるとともに、企業説明会に参加し採用試験を受験し内定を獲得する。						
じゅぎょうがいよう 授業概要	これまでのキャリアデザインで習得した知識、ノウハウを踏まえ、校内企業説明会に参加し採用試験を受験する。						
じゅぎょう 授業の うんえいほうほう 運営方法	本学と連携関係にある企業の採用担当者に来校いただき、校内で会社説明会、面接等を実施する。						
たんとうきょういん 担当教員 からの メッセージ	企業から仕事の実際について話を伺い理解を深めるとともに、積極的に企業説明会に参加し効率よく就職活動を進めていきましょう。						
りかいど 理解度 テスト	授業毎にFormsによる確認テストを実施する。						
ていきしけん 定期試験	【受験資格】出席率70%以上の学生 【試験方法】筆記試験または「フォームによる試験」						
せいせきひょうか 成績評価 の ほうほう 方法・基準	本校の成績評価基準に基づき、到達目標達成度を次の方法で評価する。 ・定期試験 50% ・平常点（授業態度や演習への取り組み）10% ・理解度テスト 40%						
オフィス アワー	放課後、メールあるいは対面にて対応。但し、事前に都合を確認のこと。						
きょうざい 教材	クラスルームに配布する電子テキスト						
さんこうしょ 参考書							

科目名	キャリアデザインⅡ b	担当教員	はのふるや 杷野・古屋
授 業 計 画			
回数	授 業 内 容	AL の 形 態	授 業 の 狙 い
1 週 目	企業の採用担当者から仕事の実際、仕事の内容、選考方法について伺う。	対話議論型 授 業	企業の採用担当者より 業界、職種、会社、仕事 内容等の話を伺う。
2 週 目	企業の採用担当者から仕事の実際、仕事の内容、選考方法について伺う。		
3 週 目	企業の採用担当者から仕事の実際、仕事の内容、選考方法について伺う。		
4 週 目	企業の採用担当者から仕事の実際、仕事の内容、選考方法について伺う。		
5 週 目	企業の採用担当者から仕事の実際、仕事の内容、選考方法について伺う。		
6 週 目	企業の採用担当者から仕事の実際、仕事の内容、選考方法について伺う。		
7 週 目	企業の採用担当者から仕事の実際、仕事の内容、選考方法について伺う。		
8 週 目	定期試験		修得した知識、ノウハウ の理解度を確認する。
9 週 目	当学期の授業の振り返り及び定期試験の解説	対話議論型 授 業	当学期で学習した内容を 振り返り、要点を理解する。
AL形態の内容			
対話議論型：講師からの発問による対話、学生間の議論を取り入れた講義			
事前学習型：あらかじめ講師が掲示した資料を読み事前に学習し、実践を中心とした講義。			
調査学習型：問題解決のため、インターネットや関連書籍を自らが調査し、学んでいく講義。			
ロールプレイ：学生に特定の役割を与えて演じさせることを通じ、それぞれの立場の人の考え方を 体験的に学ぶ方法。			

れいわ ねんど
令和 7 年度シラバス

				たんとうきょういん 担当教員		じつむけいけん 実務経験	
				杷野 恭久		○	
				古屋 嘉昭		○	
たいしょうがつか 対象学科	■IG ■AI ■GS ■BD □GB □IL						
かもくめい 科目名	キャリアデザインⅡc						
ねんじ 年次	ねん 2 年	かいこうき 開講期	だい き 第 3 期	くぶん 区分	ひっしゅう せんたく ひっせん □必修■選択□必選	じゅぎょうじすう 授業時数	じかん 18 時間
じゅぎょう 授業 とうたつもくひょう 到達目標	【最終期授業の到達目標】 内定獲得に向けて就職活動の流れを理解するとともに、履歴書作成や面接時の応答等について準備を進め、早期の内定獲得を目指す。また、卒業後、社会人生活が円滑に進むよう、仕事をする際に役立つ知識、ノウハウを修得する。 【当期授業の到達目標】 第2学期終了時点で未内定の学生を対象に、就職内定獲得に向け、業界、職種研究、履歴書・自己紹介書の作成、面接準備等をすすめ、応募できる企業を検索し応募する。						
じゅぎょうがいよう 授業概要	授業は就職支援の担当部署であるキャリアセンター職員に加え、企業の採用担当者及び実務経験者が講師となり、実地的、実践的な視点から就職のポイントを理解する。なお、企業の都合を踏まえ、各週のテーマが変更となる場合がある。						
じゅぎょう 授業の うんえいほうほう 運営方法	授業運営に際し、資料（紙）に加え動画を活用してより理解が深まるよう工夫する。受講者は事前課題に取り組むとともに、理解度テストで習熟度を図る。企業の採用担当者にも参加いただき、実践的な知識、ノウハウの修得を目指す。						
たんとうきょういん 担当教員 からの メッセージ	キャリアデザインで培った就職活動のノウハウを活かし、企業の採用試験に積極的にチャレンジしましょう。						
りかいど 理解度 テスト	授業毎にFormsによる確認テストを実施する。						
ていきしけん 定期試験	【受験資格】出席率70%以上の学生 【試験方法】筆記試験または「フォームによる試験」						
せいせきひょうか 成績評価 の ほうほう きじゆん 方法・基準	本校の成績評価基準に基づき、到達目標達成度を次の方法で評価する。 - 定期試験 50% - 平常点（授業態度や演習への取り組み）10% - 理解度テスト 40%						
オフィス アワー	放課後、メールあるいは対面にて対応。但し、事前に都合を確認のこと。						
きょうざい 教材	クラスルームに配布する電子テキスト						
さんこうしょ 参考書	「就職活動がまるごとわかる本」（マイナビ出版） 「こう動く！就職活動オールガイド ’25年版」（成美堂出版）						

科目名	キャリアデザインⅡc	担当教員	はのふるや 杷野・古屋
授 業 計 画			
回数	授 業 内 容	AL の 形 態	授 業 の 狙 い
1 週 目	企業の採用担当者から仕事の実際、仕事の内容、選考方法について伺う。	対話議論型 授 業	企業の採用担当者より 業界、職種、会社、仕事 内容等の話を伺う。
2 週 目	企業の採用担当者から仕事の実際、仕事の内容、選考方法について伺う。	対話議論型 授 業	
3 週 目	企業の採用担当者から仕事の実際、仕事の内容、選考方法について伺う。	対話議論型 授 業	
4 週 目	企業の採用担当者から仕事の実際、仕事の内容、選考方法について伺う。	対話議論型 授 業	応募に向けて履歴書、自己 紹介書、エントリーシー トを完成させるとともに、 練習を通して面接力を 高める。
5 週 目	企業の採用担当者から仕事の実際、仕事の内容、選考方法について伺う。	対話議論型 授 業	企業の採用担当者からア ドバイスを頂く。
6 週 目	企業の採用担当者から仕事の実際、仕事の内容、選考方法について伺う。	対話議論型 授 業	説明会にエントリーする。
7 週 目	企業の採用担当者から仕事の実際、仕事の内容、選考方法について伺う。	対話議論型 授 業	修得した知識、ノウハウ の理解度を確認する。
8 週 目	定期試験		当学期で学習した内容を 振り返り、要点を理解す る。
9 週 目	当学期の授業の振り返り及び定期試験の解説	対話議論型 授 業	
AL形態の内容			
対話議論型：講師からの発問による対話、学生間の議論を取り入れた講義			
事前学習型：あらかじめ講師が掲示した資料を読み事前に学習し、実践を中心とした講義。			
調査学習型：問題解決のため、インターネットや関連書籍を自らが調査し、学んでいく講義。			
ロールプレイ：学生に特定の役割を与えて演じさせることを通じ、それぞれの立場の人の考え方を 体験的に学ぶ方法。			

れいわ ねんど
令和 7 年度シラバス

れいわ ねんど 令和 7 年度シラバス				たんとくきょういん 担当教員		じつむけいけん 実務経験		
				杷野 恭久		○		
				古屋 嘉昭		○		
たいしょうがつか 対 象 学 科		■IG ■AI ■GS ■BD □GB □IL						
かもくめい 科 目 名		キャリアデザインⅡd						
ねんじ 年 次		ねん 2 年	かいこうき 開講期	だい き 第 4 期	くぶん 区 分	ひっしゅう せんたく ひっせん □必修■選択□必選	じゅぎょうじすう 授 業 時 数	じかん 18 時間
じゅぎょう 授 業 とうたつもくひょう 到達目標		【最終期授 業 の到達目標】 ないていかくどく む け てしゅうしょくかつどう な が れ り か い 内定獲得に向けて就 職 活動の流れを理解するとともに、履歴書作成や面接時の応答等につい て準備を進め、早期の内定獲得を目指す。また、卒業後、社会人生活が円滑に進むよう、仕事 をする際に役立つ知識、ノウハウを修得する。 【当期授 業 の到達目標】 とう き じゅぎょう とうたつもくひょう 卒業後、社会人生活を円滑に進めることができるための準備 おこなう。						
じゅぎょうがいよう 授 業 概 要		ビジネスマナー、身だしなみ、電話対応、メール作成等、仕事をする際の基本的な知識、ノウ ハウを修得する。						
じゅぎょう 授 業 の うんえいほうほう 運営方法		じゅぎょう 授 業 は キャリアデザインの講師に加え、キャリアセンター職員、企業の採用担当者及び実務 経験者にも協 力 いただき、实际的、実践的な視点から講義を行う。						
たんとくきょういん 担当教員 からの メッセージ		み でんわたいおう さくせいなど しごと さい きほんてき ちしき しゅうどく 身だしなみ、電話対応、メール作成等、仕事をする際の基本的な知識、ノウハウを修得し、 社会人としてしっかりスタートできるよう準備しましょう。						
り か い ど 理 解 度 テ ス ト		じゅぎょうごと かくにん じっし 授 業 毎 に Forms による確認テストを実施する。						
ていきしけん 定期試験		【受験資格】 しゅつせきりつ いじょう がくせい 出席率70%以上の学生 【試験方法】 しけんほうほう ひつきしけん 筆記試験または「フォームによる試験」						
せいせきひょうか 成 績 評 価 の ほうほう きじゅん 方法・基準		ほんこう せいせきひょうか きじゅん もとづき とうたつもくひょう たっせいど つぎ ほうほう ひょうか 本校の成績評価基準に基づき、到達目標達成度を次の方法で評価する。 ・ていきしけん 50% 定期試験 ・へいじょうてん じゅぎょうたいど えんしゅう と く 10% 平常点（授 業 態度や演 習 への取り組み） ・りかいど 40% 理解度テスト						
オフィス アワー		ほう か ご たいめん たいおう ただし じぜん つごう かくにん 放課後、メールあるいは対面にて対応。但し、事前に都合を確認のこと。						
きょう ざい 教 材		はいふ でんし クラスルームに配布する電子テキスト						
さんこうしょ 参考書								

科目名	キャリアデザインⅡd	担当教員	はのふるや 杷野・古屋
授 業 計 画			
回数	授業内容	ALの形態	授業の狙い
1週目	仕事に役立つビジネスマナーとして、電話対応のポイント を修得する。	対話議論型 授業	身だしなみ、電話対応、メール作成等、仕事をする際の基本的な知識、ノウハウを修得し、社会人としてしっかりスタートできるよう準備する。
2週目	仕事に役立つビジネスマナーとして、メール作成のポイント を修得する。		
3週目	仕事に役立つビジネスマナーとして、文書作成のポイント を修得する①。		
4週目	仕事に役立つビジネスマナーとして、ビジネスシーンごとの注意事項を理解する。		
5週目	仕事に役立つビジネスマナーとして、会社での言葉づかい のポイントを修得する。		
6週目	仕事に役立つビジネスマナーとして、身だしなみに関する ポイントを修得する。		
7週目			
8週目	定期試験		修得した知識、ノウハウの理解度を確認する。
9週目	当学期の授業の振り返り及び定期試験の解説	対話議論型 授業	当学期で学習した内容を振り返り、要点を理解する。
【AL形態の内容】 対話議論型：講師からの発問による対話、学生間の議論を取り入れた講義 事前学習型：あらかじめ講師が掲示した資料を読み事前に学習し、実践を中心とした講義。 調査学習型：問題解決のため、インターネットや関連書籍を自らが調査し、学んでいく講義。 ロールプレイ：学生に特定の役割を与えて演じさせることを通じ、それぞれの立場の人の考え方を体験的に学ぶ方法。			

れいわ ねんど
令和 7 年度シラバス

れいわ ねんど 令和 7 年度シラバス				たんとうきょういん 担当教員		じつむけいけん 実務経験		
				花島 恒登		○		
				田中 正彦		○		
たいしょうがつか 対 象 学 科		■IG ■AI ■GS □BD □GB □IL						
かもくめい 科 目 名		じっせん 実践ゼミ a						
ねん じ 年 次		ねん 2年	かいこうき 開講期	だい き 第1期	く ぶ ん 区 分	ひつしゅう せんたく ひつせん □必修■選択□必選	じゅぎょうじすう 授 業 時 数	じ か ん 9時間
じゅぎょう 授 業 とうたつもくひょう 到達目標		【最終期授 業 の到達目標】 就 職 活動を行いながら、活動上の問題点を整理し対策することによって活動の質を向上し、就 職 内定できる。 【当期授 業 の到達目標】 最終期授 業 の到達目標と同じ。						
じゅぎょうがいよう 授 業 概 要		IT業界でのシステム開発の経験を有する教員が、職場での体験について解説する。就 職 するために必要な準備、活動について理解し、実際に就 職 活動を行う。						
じゅぎょう 授 業 の うんえいほうほう 運 営 方 法		授 業 時 までに行った活動についての報告を受け、活動についてアドバイスする。YSE キャリアネットなどを提示しながら、就 職 活動での注意点を講義する。必要に応じて面接などのロールプレイを実施する。 就 職 内定した者は目指す検定試験に向けて自習すること。						
たんとうきょういん 担 当 教 員 か ら の め っ せ ー じ メ ッ セ ー ジ		就 職 内定するためには、早めの動き出しが肝心である。1年次のホームルームでの学習を踏まえ、積極的に就 職 活動に取り組んでいただきたい。						
り か い ど 理 解 度 て す と テ ス ト		まいかいFormsによる理解度テストを実施する。						
て い き し け ん 定 期 試 験		【受験資格】出席率70%以上の学生 【試験方法】定期試験（筆記またはFormによる試験）						
せいせきひょうか 成 績 評 価 の ほうほう きじゅん 方 法 ・ 基 準		・ 定期試験 50% ・ 平常点（授 業 態度や演 習 への取り組み）10% ・ 理解度テスト 40%						
オフィス アワー		放課後、メールベースあるいは対面にて対応。但し、事前に都合を確認のこと。						
きょう ざ い 教 材		なし						
さんこうしょ 参 考 書								

科目名	実践ゼミ a	担当教員	花島・田中
授 業 計 画			
回数	授 業 内 容	AL の形態	授 業 の狙い
1 週 目	・ 就 職 活 動 の ルール の 確 認	事前学習型	活動報告を行うことによって今までの就職活動について振り返り、活動内容の質の向上を図る。
2 週 目	・ 活動報告とそれに対するアドバイス ・ 今後の予定について	事前学習型	
3 週 目	・ 活動報告とそれに対するアドバイス ・ 今後の予定について	事前学習型	
4 週 目	・ 活動報告とそれに対するアドバイス ・ 今後の予定について	事前学習型	
5 週 目	・ 活動報告とそれに対するアドバイス ・ 今後の予定について	事前学習型	
6 週 目	・ 活動報告とそれに対するアドバイス ・ 今後の予定について	事前学習型	
7 週 目	・ 活動報告とそれに対するアドバイス ・ 今後の予定について	事前学習型	
8 週 目	・ 復 習 及 び 定 期 試 験		理解度を確認する
9 週 目	・ ま と め と 振 り 返 り		フィードバック
アクティブラーニングの類型 ・ ロールプレイ…学生に特定の役割を与えて演技させることを通じ、それぞれの立場の人等の考え方を体験的に学ぶ方法。			

れいわ ねんど
令和 7 年度シラバス

れいわ ねんど 令和 7 年度シラバス				たんとうきょういん 担当教員		じつむけいけん 実務経験		
				花島 恒登		○		
				田中 正彦		○		
たいしょうがつか 対 象 学 科				■IG ■AI ■GS □BD □GB □IL				
かもくめい 科 目 名				じっせん 実践ゼミ b				
ねん じ 年 次		ねん 2年	かいこうき 開講期	だい き 第2期	く ぶ ん 区 分	ひつしゅう せんたく ひつせん □必修■選択□必選	じゅぎょうじすう 授 業 時 数	じ か ん 9時間
じゅぎょう 授 業 とうたつもくひょう 到達目標		【最終期授 業 の到達目標】 就 職 活動を行いながら、活動上の問題点を整理し対策することによって活動の質を向上し、就 職 内定できる。 【当期授 業 の到達目標】 最終期授 業 の到達目標と同じ。						
じゅぎょうがいよう 授 業 概 要		IT業界でのシステム開発の経験を有する教員が、職場での体験について解説する。就 職 するために必要な準備、活動について理解し、実際に就 職 活動を行う。						
じゅぎょう 授 業 の うんえいほうほう 運 営 方 法		授 業 時 までに行った活動についての報告を受け、活動についてアドバイスする。YSE キャリアネットなどを提示しながら、就 職 活動での注意点を講義する。必要に応じて面接などのロールプレイを実施する。 就 職 内定した者は目指す検定試験に向けて自習すること。						
たんとうきょういん 担 当 教 員 か ら の め っ せ ー じ メ ッ セ ー ジ		就 職 内定するためには、早めの動き出しが肝心である。1年次のホームルームでの学習を踏まえ、積極的に就 職 活動に取り組んでいただきたい。						
り か い ど 理 解 度 て す と テ ス ト		まいかいFormsによる理解度テストを実施する。						
て い き し け ん 定 期 試 験		【受験資格】出席率70%以上の学生 【試験方法】定期試験（筆記またはFormによる試験）						
せいせきひょうか 成 績 評 価 の ほうほう きじゆん 方 法 ・ 基 準		・定期試験 50% ・平常点（授 業 態度や演 習 への取り組み）10% ・理解度テスト 40%						
オフィス アワー		放課後、メールベースあるいは対面にて対応。但し、事前に都合を確認のこと。						
きょう ざ い 教 材		なし						
さんこうしょ 参 考 書								

科目名	実践ゼミ b	担当教員	花島・田中
授 業 計 画			
回数	授 業 内 容	AL の形態	授 業 の狙い
1 週 目	・ 就 職 活 動 の ルール の 確 認	事前学習型	活動報告を行うことによってこれまでの就職活動について振り返り、活動内容の質の向上を図る。
2 週 目	・ 活動報告とそれに対するアドバイス ・ 今後の予定について	事前学習型	
3 週 目	・ 活動報告とそれに対するアドバイス ・ 今後の予定について	事前学習型	
4 週 目	・ 活動報告とそれに対するアドバイス ・ 今後の予定について	事前学習型	
5 週 目	・ 活動報告とそれに対するアドバイス ・ 今後の予定について	事前学習型	
6 週 目	・ 活動報告とそれに対するアドバイス ・ 今後の予定について	事前学習型	
7 週 目	・ 活動報告とそれに対するアドバイス ・ 今後の予定について	事前学習型	
8 週 目	・ 復 習 及 び 定 期 試 験		理解度を確認する
9 週 目	・ ま と め と 振 り 返 り		フィードバック
アクティブラーニングの類型 ・ ロールプレイ…学生に特定の役割を与えて演技させることを通じ、それぞれの立場の人等の考え方を体験的に学ぶ方法。			

れいわ ねんど
令和 7 年度シラバス

れいわ ねんど 令和 7 年度シラバス				たんとうきょういん 担当教員		じつむけいけん 実務経験			
				花島 恒登		○			
				田中 正彦		○			
たいしょうがつか 対 象 学 科		■IG ■AI ■GS □BD □GB □IL							
かもくめい 科 目 名		じっせん 実践ゼミ c							
ねん じ 年 次		ねん 2年	かいこうき 開講期	だい き 第3期	く ぶ ん 区 分	ひつしゅう せんたく ひつせん □必修■選択□必選	じゅぎょうじすう 授 業 時 数	じ か ん 9時間	
じゅぎょう 授 業 とうたつもくひょう 到達目標		【最終期授 業 の到達目標】 就 職 活動を行いながら、活動上の問題点を整理し対策することによって活動の質を向上し、就 職 内定できる。 【当期授 業 の到達目標】 最終期授 業 の到達目標と同じ。							
じゅぎょうがいよう 授 業 概 要		IT業界でのシステム開発の経験を有する教員が、職場での体験について解説する。就 職 するために必要な準備、活動について理解し、実際に就 職 活動を行う。							
じゅぎょう 授 業 の うんえいほうほう 運 営 方 法		授 業 時 までに行った活動についての報告を受け、活動についてアドバイスする。YSE キャリアネットなどを提示しながら、就 職 活動での注意点を講義する。必要に応じて面接などのロールプレイを実施する。 就 職 内定した者は目指す検定試験に向けて自習すること。							
たんとうきょういん 担 当 教 員 か ら の め っ せ ー じ メ ッ セ ー ジ		就 職 内定するためには、早めの動き出しが肝心である。1年次のホームルームでの学習を踏まえ、積極的に就 職 活動に取り組んでいただきたい。							
り か い ど 理 解 度 て す と テ ス ト		まいかいFormsによる理解度テストを実施する。							
て い き し け ん 定 期 試 験		【受験資格】出席率70%以上の学生 【試験方法】定期試験（筆記またはFormによる試験）							
せいせきひょうか 成 績 評 価 の ほうほう きじゆん 方 法 ・ 基 準		・ 定期試験 50% ・ 平常点（授 業 態度や演 習 への取り組み）10% ・ 理解度テスト 40%							
オフィス アワー		放課後、メールベースあるいは対面にて対応。但し、事前に都合を確認のこと。							
きょう ざ い 教 材		なし							
さんこうしょ 参 考 書									

科目名	実践ゼミ c	担当教員	花島・田中
授 業 計 画			
回数	授 業 内 容	AL の形態	授 業 の狙い
1 週 目	・ 就 職 活 動 の ルール の 確 認	事前学習型	活動報告を行うことによってこれまでの就職活動について振り返り、活動内容の質の向上を図る。
2 週 目	・ 活動報告とそれに対するアドバイス ・ 今後の予定について	事前学習型	
3 週 目	・ 活動報告とそれに対するアドバイス ・ 今後の予定について	事前学習型	
4 週 目	・ 活動報告とそれに対するアドバイス ・ 今後の予定について	事前学習型	
5 週 目	・ 活動報告とそれに対するアドバイス ・ 今後の予定について	事前学習型	
6 週 目	・ 活動報告とそれに対するアドバイス ・ 今後の予定について	事前学習型	
7 週 目	・ 活動報告とそれに対するアドバイス ・ 今後の予定について	事前学習型	
8 週 目	・ 復 習 及 び 定 期 試 験		理解度を確認する
9 週 目	・ ま と め と 振 り 返 り		フィードバック
アクティブラーニングの類型 ・ ロールプレイ…学生に特定の役割を与えて演技させることを通じ、それぞれの立場の人等の考え方を体験的に学ぶ方法。			

れいわ ねんど
令和 7 年度シラバス

れいわ ねんど 令和 7 年度シラバス				たんとうきょういん 担当教員		じつむけいけん 実務経験			
				花島 恒登		○			
				田中 正彦		○			
たいしょうがつか 対 象 学 科				■IG ■AI ■GS □BD □GB □IL					
かもくめい 科 目 名				じっせん 実践ゼミ d					
ねん じ 年 次		ねん 2年	かいこうき 開講期	だい き 第4期	く ぶ ん 区 分	ひつしゅう せんたく ひつせん □必修■選択□必選	じゅぎょうじすう 授 業 時 数	じ か ん 9時間	
じゅぎょう 授 業 とうたつもくひょう 到達目標		【最終期授 業 の到達目 標】 就 職 活動を行いながら、活動上の問題点を整理し対策することによって活動の質を向上し、就 職 内定できる。 【当期授 業 の到達目 標】 最終期授 業 の到達目 標に同じ。							
じゅぎょうがいよう 授 業 概 要		IT業界でのシステム開発の経験を有する教員が、職場での体験について解説する。就 職 するために必要な準備、活動について理解し、実際に就 職 活動を行う。							
じゅぎょう 授 業 の うんえいほうほう 運 営 方 法		授 業 時 までに行った活動についての報告を受け、活動についてアドバイスする。YSE キャリアネットなどを提示しながら、就 職 活動での注意点を講義する。必要に応じて面接などのロールプレイを実施する。 就 職 内定した者は目指す検定試験に向けて自習すること。							
たんとうきょういん 担 当 教 員 か ら の め っ せ ー じ メ ッ セ ー ジ		就 職 内定するためには、早めの動き出しが肝心である。1年次のホームルームでの学習を踏まえ、積極的に就 職 活動に取り組んでいただきたい。							
り か い ど 理 解 度 て す と テ ス ト		まいかいFormsによる理解度テストを実施する。							
て い き し け ん 定 期 試 験		【受験資格】出席率70%以上の学生 【試験方法】定期試験（筆記またはFormによる試験）							
せいせきひょうか 成 績 評 価 の ほうほう きじゅん 方 法 ・ 基 準		・定期試験 50% ・平常点（授 業 態度や演 習 への取り組み）10% ・理解度テスト 40%							
オフィス アワー		放課後、メールベースあるいは対面にて対応。但し、事前に都合を確認のこと。							
きょう ざ い 教 材		なし							
さんこうしょ 参 考 書									

科目名	実践ゼミ d	担当教員	花島・田中
授 業 計 画			
回数	授 業 内 容	AL の形態	授 業 の狙い
1 週 目	・ 就 職 活 動 の ルール の 確 認	事前学習型	活動報告を行うことによってこれまでの就職活動について振り返り、活動内容の質の向上を図る。
2 週 目	・ 活動報告とそれに対するアドバイス ・ 今後の予定について	事前学習型	
3 週 目	・ 活動報告とそれに対するアドバイス ・ 今後の予定について	事前学習型	
4 週 目	・ 活動報告とそれに対するアドバイス ・ 今後の予定について	事前学習型	
5 週 目	・ 活動報告とそれに対するアドバイス ・ 今後の予定について	事前学習型	
6 週 目	・ 活動報告とそれに対するアドバイス ・ 今後の予定について	事前学習型	
7 週 目	・ 活動報告とそれに対するアドバイス ・ 今後の予定について	事前学習型	
8 週 目	・ 復 習 及 び 定 期 試 験		理解度を確認する
9 週 目	・ ま と め と 振 り 返 り		フィードバック
アクティブラーニングの類型 ・ ロールプレイ…学生に特定の役割を与えて演技させることを通じ、それぞれの立場の人等の考え方を体験的に学ぶ方法。			

れいわ ねんど
令和 7 年度シラバス

たんとうきょういん 担当教員	じつむけいけん 実務経験
佐藤 晋亮	○

たいしょうがつか 対象学科	□IG ■AI □GS □BD □GB □IL				
かもくめい 科目名	データサイエンス応用a				
ねんじ 年次	ねん 2年	かいこうき 開講期	だい き 第 1 期	くぶん 区分	ひつしゅう せんたく ひつせん □必修■選択□必選
じゅぎょう 授業 とうたつむくひょう 到達目標	【最終期授業の到達目標】 データ分析に必要なデータサイエンス力・データエンジニアリング力・ビジネス力について基本的な知識を身につけ、データを所望の状態に加工することができる。 【当期授業の到達目標】 データ分析に必要な基本的な知識、ライブラリの操作ができるようになる。				
じゅぎょうがいよう 授業概要	学科目標としての資格試験「Python3エンジニア認定データ分析試験」取得に向けた授業				
じゅぎょう 授業の うんえいほうほう 運営方法	講義で基本的な知識を説明した後、サンプルプログラムを通じて各命令の働きを理解する				
たんとうきょういん 担当教員 からの メッセージ	内容は基本的なことが多いですが、データ分析では基礎の基礎です。何度も反復して自然と命令が打ち込めるように練習してください				
りかいど 理解度 テスト	区切りの良いところで理解度テストを実施する。				
ていきしけん 定期試験	【受験資格】出席率70%以上の学生 【試験方法】指示されたプログラムが入力できるかを試験				
せいせきひょうか 成績評価 の ほうほう 方法・基準	本校の成績評価基準に基づき、到達目標達成度を次の方法で評価。 ・平常点（授業態度や演習への取り組み）10% ・理解度テスト 40% ・定期試験 50%				
オフィス アワー	放課後、メールベースあるいは対面にて対応。但し、事前に都合を確認のこと。				
きょうざい 教材	授業に必要なファイルはクラスルームにて共有する。				
さんこうしょ 参考書	Pythonによるあたらしいデータ分析の教科書、寺田・辻・鈴木・福島著、翔泳社、2580円＋税				

科目名	データサイエンス応用a	担当教員	佐藤
授 業 計 画			
回数	授業内容	AL の形態	授業の狙い
1週目	ガイダンス		
2週目	数学を読むための基礎知識 線形代数	事前学習型	データサイエンスに必要な となる基本的な知識の 習得
3週目	基礎解析 確率と統計	事前学習型	
4週目	Numpy、Pandasライブラリによる分析	事前学習型 調査学習型	ライブラリを使った分析
5週目	Matplotlib、scikit-learnライブラリによる分析	事前学習型 調査学習型	
6週目	スクレイピング 自然言語処理	事前学習型 調査学習型	データ収集方法
7週目	画像データ処理	事前学習型 調査学習型	
8週目	復習及び定期試験		
9週目	定期試験内容の解説		
AL形態の内容			
事前学習型：あらかじめ教員が提示した資料を読み事前に学習し、実践を中心とした授業 調査学習型：問題解決のため、インターネットや関連書籍を自らが調査し、学んでいく授業			

れいわ ねんど
令和 7 年度シラバス

				たんとくきょういん 担当教員		じつむけいけん 実務経験	
				佐藤 晋亮		○	
たいしょうがつか 対象学科	☐ IG ☒ AI ☐ GS ☐ BD ☐ GB ☐ IL						
かもくめい 科目名	データサイエンス応用b						
ねんじ 年次	ねん 2年	かいこうき 開講期	だい き 第2期	くぶん 区分	ひっしゅう せんたく ひつせん ☐ 必修 ☒ 選択 ☐ 必選	じゅぎょうじすう 授業時数	じかん 72 時間
じゅぎょう 授業 とうたつむくひょう 到達目標	【最終期授業の到達目標】 データ分析に必要なデータサイエンス力・データエンジニアリング力・ビジネス力について基本的な知識を身につけ、データを所望の状態に加工することができる。 【当期授業の到達目標】 データ分析に必要な知識をさらに深化させ、ライブラリの操作ができるようになる。						
じゅぎょうがいよう 授業概要	がつかもくひょうしかく 学科目標資格である「Python3エンジニア認定データ分析試験」をさらに深掘した授業						
じゅぎょう 授業の うんえいほうほう 運営方法	こうぎ きほんてき ちしき せつめい あと 講義で基本的な知識を説明した後、サンプルプログラムを通じて各命令の働きを理解する						
たんとくきょういん 担当教員 からの メッセージ	ないよう きほんてき おお 内容は基本的なことが多いですが、データサイエンス応用aより一段階難しい内容です。何度も反復して自然と命令が打ち込めるように練習してください						
りかいど 理解度 テスト	くぎ よ 区切りの良いところで理解度テストを実施する。						
ていきしけん 定期試験	じゅけんしかく しゅつせきりつ いじょう がくせい 【受験資格】出席率70%以上の学生 しけんほうほう しじ にゅうりょく 【試験方法】指示されたプログラムが入力できるかを試験						
せいせきひょうか 成績評価 の ほうほう きじゆん 方法・基準	ほんこう せいせきひょうかきじゆん もと とうたつむくひょうたっせいど つぎ ほうほう ひょうか 本校の成績評価基準に基づき、到達目標達成度を次の方法で評価。 ・平常点（授業態度や演習への取り組み）10% ・理解度テスト 40% ・定期試験 50%						
オフィス アワー	ほうかご たいめん たいおう ただし じぜん つごう かくにん 放課後、メールベースあるいは対面にて対応。但し、事前に都合を確認のこと。						
きょうざい 教材	じゅぎょう ひつよう 授業に必要なファイルはクラスルームにて共有する。						
さんこうしょ 参考書	Pythonデータサイエンスハンドブック、J. VanderPlas著・菊池訳、オライリージャパン、4200円＋税						

科目名	データサイエンス応用b	担当教員	佐藤
授 業 計 画			
回数	授業内容	AL の形態	授業の狙い
1週目	ガイダンス		
2週目	Numpyライブラリ計算	事前学習型 調査学習型	Numpyを使った計算方法を習得する
3週目	pandasライブラリによるデータ操作（1）	事前学習型 調査学習型	pandasを使ってより詳細なデータ操作方法を習得する
4週目	pandasライブラリによるデータ操作（2）	事前学習型 調査学習型	
5週目	Matplotlibによる可視化（1）	事前学習型 調査学習型	pandasを使ってより詳細なデータ操作方法を習得する
6週目	Matplotlibによる可視化（2）	事前学習型 調査学習型	
7週目	機械学習	事前学習型 調査学習型	機械学習を使ったデータ分析知識を習得する
8週目	復習及び定期試験		
9週目	定期試験内容の解説		
AL形態の内容			
事前学習型：あらかじめ教員が掲示した資料を読み事前に学習し、実践を中心とした授業 調査学習型：問題解決のため、インターネットや関連書籍を自らが調査し、学んでいく授業			

れいわ ねんど
令和 7 年度シラバス

れいわ ねんど 令和 7 年度シラバス				たんとうきょういん 担当教員		じつむけいけん 実務経験	
				佐藤 晋亮		○	
たいしょうがつか 対 象 学 科	□IG ■AI □GS □BD □GB □IL						
かもくめい 科 目 名	データサイエンス応用c						
ねん じ 年 次	ねん 2年	かいこうき 開講期	だい き 第3期	くぶん 区 分	ひつしゅう せんたく ひつせん □必修■選択□必選	じゅぎょうじすう 授 業 時 数	じ かん 72 時 間
じゅぎょう 授 業 とうたつむくひょう 到達目標	【最終期授 業の到達目 標】 データ分析に必要なデータサイエンス力・データエンジニアリング力・ビジネス力について基本的な知識を身につけ、データを所望の状 態に加工することができる。 【当期授 業の到達目 標】 データサイエンスでよく利用されるデータ操作を実 習にて習得する。						
じゅぎょうがいよう 授 業 概 要	データ分析で使われるPandasライブラリ中心にさらに詳しく解説する授 業						
じゅぎょう 授 業 の うんえいほうほう 運 営 方 法	講義で基本的な知識を説明した後、サンプルプログラムを通じて各命令の 働 きを理解する						
たんとうきょういん 担 当 教 員 か ら の メ ッ セ ー ジ	データサイエンス応用a, bで学 修した命令よりさらに詳しい内容です。何度も反復して自然と命令が打ち込めるように練 習してください						
り かい ど 理 解 度 テ ス ト	区切りの良いところで理解度テストを実施する。						
ていきしけん 定 期 試 験	【受験資格】出席率70%以上の学生 【試験方法】指示されたプログラムが入 力できるかを試験						
せいせきひょうか 成 績 評 価 の ほうほう・きじゆん 方 法 ・ 基 準	本校の成績評価基準に基づき、到達目 標達成度を次の方法で評価。 ・平常点（授 業態度や演 習への取り組み）10% ・理解度テスト 40% ・定期試験 50%						
オフィス アワー	放課後、メールベースあるいは対面にて対応。但し、事前に都合を確認のこと。						
きょう ざい 教 材	授 業に必要なファイルはクラスルームにて共有する。						
さんこうしょ 参 考 書	Pythonによるデータ分析入門、W. McKinney著・瀬戸山、小林、滝口訳、オライリージャパン、3800円＋税						

科目名	データサイエンス応用c	担当教員	佐藤
授 業 計 画			
回数	授業内容	AL の形態	授業の狙い
1週目	ガイダンス		
2週目	インデックス操作、ファイル操作	事前学習型 調査学習型	インデックスによるデータ取得方法を習得する
3週目	データのクリーニング、前処理	事前学習型 調査学習型	前処理方法を習得する
4週目	データラングリング	事前学習型 調査学習型	目的を持ったデータへの変更方法を習得する
5週目	データの集約とグループ演算	事前学習型 調査学習型	取得データの加工方法を習得する
6週目	時系列データのあつかい	事前学習型 調査学習型	時系列データの加工方法を習得する
7週目	モデリングライブラリ・データ分析例	事前学習型 調査学習型	データ分析例を使って追体験する
8週目	復習及び定期試験		
9週目	定期試験内容の解説		
AL形態の内容			
事前学習型：あらかじめ教員が掲示した資料を読み事前に学習し、実践を中心とした授業 調査学習型：問題解決のため、インターネットや関連書籍を自らが調査し、学んでいく授業			

れいわ ねんど
令和 7 年度シラバス

				たんとくきょういん 担当教員		じつむけいけん 実務経験	
				佐藤 晋亮		○	
たいしょうがつか 対象学科	☐ IG ☒ AI ☐ GS ☐ BD ☐ GB ☐ IL						
かもくめい 科目名	おうよう データサイエンス応用d						
ねんじ 年次	ねん 2年	かいこうき 開講期	だい き 第4期	くぶん 区分	ひっしゅう せんたく ひつせん ☐ 必修 ☒ 選択 ☐ 必選	じゅぎょうじすう 授業時数	じかん 72 時間
じゅぎょう 授業 とうたつむくひょう 到達目標	【最終期授業の到達目標】 データ分析に必要なデータサイエンス力・データエンジニアリング力・ビジネス力について基本的な知識を身につけ、データを所望の状態に加工することができる。 【当期授業の到達目標】 今までの学習をもとに、オープンデータを利用したデータ加工ができるようになる。						
じゅぎょうがいよう 授業概要	じっさいにあるオープンデータを利用して、今まで学修したコマンドを使って、所望のデータに加工できるように演習する授業						
じゅぎょう 授業の うんえいほうほう 運営方法	データ加工の実例を見せ、グループ内でデータを使って表現したい作品を企画し、作品に向けて制作に取り組む						
たんとくきょういん 担当教員 からの メッセージ	グループ活動になります。お互いによく話し合って、今まで学修したスキルを使って所望データに加工できるようになってください						
りかいど 理解度 テスト	ちゅうかんほうこくかい 中間報告会に代える						
ていきしけん 定期試験	【受験資格】出席率70%以上の学生 【試験方法】制作作品の提出						
せいせきひょうか 成績評価 の ほうほう 方法・基準	ほんこう せいせきひょうかきじゆん もと 本校の成績評価基準に基づき、到達目標達成度を次の方法で評価。 ・平常点（授業態度や演習への取り組み）10% ・理解度テスト 40% ・定期試験 50%						
オフィス アワー	ほうかご 放課後、メールベースあるいは対面にて対応。但し、事前に都合を確認のこと。						
きょうざい 教材	じゅぎょう ひつよう 授業に必要なファイルはクラスルームにて共有する。						
さんこうしょ 参考書	なし						

科目名	データサイエンス応用d	担当教員	佐藤
授 業 計 画			
回数	授業内容	AL の形態	授業の狙い
1週目	ガイダンス		
2週目	オープンデータを活用した事例紹介と企画検討	対話議論型 事前学習型 調査学習型	オープンデータを知る グループで活用法を検討する
3週目	データ加工作業（1）	対話議論型 事前学習型 調査学習型	企画にあったデータ調査 と加工方法をグループで
4週目	データ加工作業（2）	対話議論型 事前学習型 調査学習型	検討し実行する力を身につける
5週目	中間報告会	対話議論型	伝達能力向上を図る
6週目	データ加工作業（3）	対話議論型 事前学習型 調査学習型	企画にあったデータ調査 と加工方法をグループで
7週目	データ加工作業（4）	対話議論型 事前学習型 調査学習型	検討し実行する力を身につける
8週目	企画発表会	対話議論型	伝達能力向上を図る
9週目	発表会の振り返り	対話議論型	改良能力向上を図る
AL形態の内容			
対話議論型：教員からの発問による対話、学生間の議論を取り入れた授業 事前学習型：あらかじめ教員が提示した資料を読み事前に学習し、実践を中心とした授業 調査学習型：問題解決のため、インターネットや関連書籍を自らが調査し、学んでいく授業			

れいわ ねんど
令和 7 年度シラバス

れいわ ねんど 令和 7 年度シラバス				たんとうきょういん 担当教員		じつむけいけん 実務経験	
				田中 正彦		○	
たいしょうがつか 対 象 学 科	□IG ■AI □GS □BD □GB □IL						
かもくめい 科目名	じっせん AI実践a						
ねん じ 年 次	ねん 2年	かいこうき 開講期	だい き 第1期	くぶん 区 分	ひつしゅう せんたく ひつせん □必修■選択□必選	じゅぎょうじすう 授 業 時 数	じ かん 36 時 間
じゅぎょう 授 業 とうたつもくひょう 到達目標	（さいしゅうきじゅぎょう とうたつもくひょう） 【最終期授 業 の到達目標】 じぶん きかく 自分が企画したシステムを制作（プログラミング）できるようになる。 （とうきじゅぎょう とうたつもくひょう） 【当期授 業 の到達目標】 システム開発に必要な設計書を様式に合わせて作成できるようになる。また問題を自らの力 で解決する能力を身につける。						
じゅぎょうがいよう 授 業 概 要	システム開発経験を有する教員から設計とプログラミングに対する知識を説明する。様々なツ ールなども利用しつつ実際にシステムを制作できる能力を身につける。						
じゅぎょう 授 業 の うんえいほうほう 運営方法	じっしゅうおよびしつぎおうとう 実 習 及 び 質 疑 応 答						
たんとうきょういん 担 当 教 員 からの めっせーじ メッセージ	さまざまなアイデアを出し、それを実現するためにはどうしたらいいのか。常に色々 考 え 続 け て 授 業 に 参 加 す る こ と 。 ま た 、 発 生 し た 問 題 を 自 分 で 解 決 す る 能 力 を 身 に つ け る こ と （ イン タ ー ネ ッ ト で 検 索 す る / 他 者 へ 相 談 す る な ど ） 。						
りかいど 理 解 度 てすと テ ス ト	じゅぎょうごと りかいどてすと かだい ていしゅつ 授 業 毎 に 、 理 解 度 テ ス ト 、 課 題 を 提 出 。						
ていきしけん 定 期 試 験	（じゅけんしかく） しゅつせきりつ70 いじょう がくせい 【受験資格】出席率70%以上の学生 （ししけんほうほう） かだいせいさく しけん 【試験方法】課題制作による試験（プログラミング）						
せいせきひょうか 成 績 評 価 の ほうほう きじゆん 方法・基準	ほんこう せいせきひょうかきじゆん もとづき とうたつもくひょうたっせいど つぎ ほうほう ひょうか 本校の成績評価基準に基づき、到達目標達成度を次の方法で評価。 ・定期試験 50% ・平常点（授業態度や演習への取り組み）10% ・理解度テスト 40%						
オフィス アワー	ほうかご めーる ベース たいめん たいおう ただし じぜん つごう かくにん 放課後、メールベースあるいは対面にて対応。但し、事前に都合を確認のこと。						
きょうざい 教 材	なし						
さんこうしょ 参 考 書							

科目名	AI実践a	担当教員	田中
授 業 計 画			
回数	授 業 内 容	AL の形態	授 業 の狙い
1 週 目	ガイダンス・チームビルディング システム開発の流れについて（プログラミング）	対話・議論型	システム制作を通して 開発スキルとコミュニケーションスキルを身につける
2 週 目	システム開発演習（プログラミング）① （概要設計書の説明・スケジュール作成）	事前学習型 対話・議論型	
3 週 目	システム開発演習（プログラミング）② （詳細設計書の説明・役割分担・制作開始）	事前学習型 対話・議論型	
4 週 目	システム開発演習（プログラミング）③ （システム制作：プログラミング・DB作成）	事前学習型 対話・議論型	
5 週 目	システム開発演習（プログラミング）④ （システム制作：プログラミング・DB管理）	事前学習型 対話・議論型	
6 週 目	課題設定（プログラミング） （各自課題を設定／設計書変更）	対話・議論型 調査学習型	課題を設定して、解決する能力を身につける
7 週 目	課題制作（プログラミング） （各自課題制作）	対話・議論型 調査学習型	
8 週 目	発表準備/プレゼンテーション/実演	プレゼンテーション	他者のアイデアなどを聞き、今後の参考とする
9 週 目	フィードバック	調査学習型	反省点をまとめる
【AL形態の内容】 対話議論型：講師からの発問による対話、学生間の議論を取り入れた講義 事前学習型：あらかじめ講師が掲示した資料を読み事前に学習し、実践を中心とした講義。 調査学習型：問題解決のため、インターネットや関連書籍を自らが調査し、学んでいく講義。			

れいわ ねんど
令和 7 年度シラバス

れいわ ねんど 令和 7 年度シラバス				たんとくきょういん 担当教員		じつむけいけん 実務経験	
				田中 正彦		○	
たいしょうがつか 対 象 学 科	□IG ■AI □GS □BD □GB □IL						
かまくめい 科 目 名	じっせん AI実践b						
ねんじ 年 次	ねん 2年	かいこうき 開講期	だい き 第2期	くぶん 区 分	ひつしゅう せんたく ひつせん □必修■選択□必選	じゅぎょうじすう 授 業 時 数	じかん 36 時間
じゅぎょう 授 業 とうたつむくひょう 到達目標	(さいしゅうきじゅぎょう とうたつむくひょう) 【最終期授 業の到達目標】 じぶん きかく せいさく 自分が企画したシステムを制作（プログラミング）できるようになる。 (とう きじゅぎょう とうたつむくひょう) 【当期授 業の到達目標】 オリジナルシステムの企画書・設計書を作成し、プログラミングできるようになる。また もんだい みずから ちから かいけつ のうりよく み 問題を自らの力で解決する能力を身につける。						
じゅぎょうがいよう 授業概要	システム開発経験を有する教員から設計とプログラミングに対する知識を説明する。様々なツ ールなども利用しつつ実際にシステムを制作できる能力を身につける。						
じゅぎょう 授業の うんえいほうほう 運営方法	じっしゅうおよびしつぎおうとう 実習及び質疑応答						
たんとくきょういん 担当教員 からの めっせーじ メッセージ	さまざまなアイデアを出し、それを実現するためにはどうしたらいいのか。常に色々考え続けて 授業に参加すること。また、発生した問題を自分で解決する能力を身につけること（インター ネットを検索する/他者へ相談するなど）。						
りかいど 理解度 テスト	じゅぎょうごと りかいど てすと かだい ていしゆつ 授業毎に、理解度テスト、課題を提出。						
ていきしけん 定期試験	【受験資格】出席率70%以上の学生 【試験方法】課題制作による試験（プログラミング）						
せいせきひょうか 成績評価 の ほうほう きじゅん 方法・基準	ほんこう せいせきひょうかきじゅん もとづき とうたつむくひょうたっせいど つぎ ほうほう ひょうか 本校の成績評価基準に基づき、到達目標達成度を次の方法で評価。 ・定期試験 50% ・平常点（授業態度や演習への取り組み）10% ・理解度テスト 40%						
オフィス アワー	ほうかご めーる ベー す たいめん たいおう ただし じぜん つごう かくにん 放課後、メールベースあるいは対面にて対応。但し、事前に都合を確認のこと。						
きょうざい 教 材	なし						
さんこうしょ 参考書							

科目名	AI実践b	担当教員	田中
授 業 計 画			
回数	授 業 内 容	AL の形態	授 業 の狙い
1しゅうめ 1 週 目	オリジナル作品企画 (プログラミング) ① (各自アイデアを検討・企画書作成)	対話・議論型 調査学習型	作品制作を通して開発スキルとコミュニケーションスキルを身につける 課題解決する能力を身につける
2しゅうめ 2 週 目	オリジナル作品企画 (プログラミング) ② (企画書・概要設計書作成)	対話・議論型 調査学習型	
3しゅうめ 3 週 目	オリジナル作品企画 (プログラミング) ③ (プレゼン資料作成)	対話・議論型 調査学習型	
4しゅうめ 4 週 目	作品制作 (プログラミング) ① (システム開発: プログラミング・DB作成)	対話・議論型 調査学習型	
5しゅうめ 5 週 目	作品制作 (プログラミング) ② (システム開発: プログラミング・DB管理)	対話・議論型 調査学習型	
6しゅうめ 6 週 目	作品制作 (プログラミング) ③ (システム開発: プログラミング・DB管理)	対話・議論型 調査学習型	
7しゅうめ 7 週 目	作品制作 (プログラミング) ④ (システム開発: プログラミング・DB管理)	対話・議論型 調査学習型	
8しゅうめ 8 週 目	発表準備/プレゼンテーション/実演	プレゼンテーション	他者のアイデアなどを聞き、今後の参考とする
9しゅうめ 9 週 目	フィードバック	調査学習型	反省点をまとめる
【AL形態の内容】 対話議論型: 講師からの発問による対話、学生間の議論を取り入れた講義 事前学習型: あらかじめ講師が掲示した資料を読み事前に学習し、実践を中心とした講義。 調査学習型: 問題解決のため、インターネットや関連書籍を自らが調査し、学んでいく講義。			

れいわ ねんど
令和 7 年度シラバス

				たんとくきょういん 担当教員		じつむけいけん 実務経験	
				隅岡 隆之		○	
たいしょうがつか 対象学科	□IG ■AI □GS □BD □GB □IL						
かもくめい 科目名	AI システム開発実習a						
ねんじ 年次	ねん 2年	かいこうき 開講期	だい き 第 1 期	くぶん 区分	ひつしゅう せんたく ひつせん ■必修□選択□必選	じゅぎょうじすう 授業時数	54 じかん 時間
じゅぎょう 授業 とうたつもくひょう 到達目標	【最終期授業の到達目標】 AIを活用したシステムが構築できるようになる。 【当期授業の到達目標】 AIシステムの基本となるデータベースについて、環境構築、必要データの検索・加工などがSQL言語でできるようになる。						
じゅぎょうがいよう 授業概要	PostgreSQLの環境を各自のパソコンに構築し、所望のデータを取得するために、SQL命令をコマンドラインの入力を実習にておこなう。						
じゅぎょう 授業の うんえいほうほう 運営方法	SQL命令を解説し、サンプルデータを使用してコマンド入力の結果を出力させ、正しいデータが取得できたかどうかを確認する。						
たんとくきょういん 担当教員 からの メッセージ	比較的地味な作業になりますが、膨大なデータのなかから必要なデータを正確に取得するためにSQL命令を的確に打ち込む必要があります。できるだけ手を動かして、コマンド入力に慣れていきましょう。						
りかいど 理解度 テスト	区切りの良いところで理解度テストを実施する。						
ていきしけん 定期試験	【受験資格】出席率70%以上の学生 【試験方法】サンプルデータ、取得したいデータを明示し、必要なSQL命令を解答する。						
せいせきひょうか 成績評価 の ほうほう きじゆん 方法・基準	本校の成績評価基準に基づき、到達目標達成度を次の方法で評価。 ・平常点（授業態度や演習への取り組み）10% ・理解度テスト 40% ・定期試験 50%						
オフィス アワー	放課後、メールベースあるいは対面にて対応。但し、事前に都合を確認のこと。						
きょうざい 教材	授業に必要なファイルはクラスルームにて共有する。						
さんこうしょ 参考書	スッキリわかるSQL入門、中山・飯田著、インプレス社、2800円+税						

科目名	AI システム開発実習a	担当教員	隅岡
授 業 計 画			
回数	授業内容	AL の形態	授業の狙い
1週目	ガイダンス PostgreSQL環境の構築	事前学習型	SQLの環境構築
2週目	基本文法と4大命令 操作する行の絞り込み	事前学習型	基本文法を習得する
3週目	検索結果の加工 式と関数	事前学習型	目的データを抽出 することができる
4週目	集計とグループ化 副問い合わせ	事前学習型	
5週目	複数テーブルの結合 トランザクション	事前学習型	データ抽出後の処理
6週目	テーブルの作成 さまざまな支援機能	事前学習型	データ元を設計する ことができるようになる
7週目	テーブルの設計	事前学習型	
8週目	復習及び定期試験		
9週目	定期試験内容の解説		
AL形態の内容			
事前学習型：あらかじめ教員が掲示した資料を読み事前に学習し、実践を中心とした授業			

れいわ ねんど
令和 7 年度シラバス

				たんとうきょういん 担当教員		じつむけいけん 実務経験	
				隅岡 隆之		○	
たいしょうがつか 対象学科	□IG ■AI □GS □BD □GB □IL						
かもくめい 科目名	AI システム開発実習b						
ねんじ 年次	ねん 2年	かいこうき 開講期	だい き 第2期	くぶん 区分	ひつしゅう せんたく ひつせん ■必修□選択□必選	じゅぎょうじすう 授業時数	54 じかん 時間
じゅぎょう 授業 とうたつむくひょう 到達目標	【最終期授業の到達目標】 AIを活用したシステムが構築できるようになる。 【当期授業の到達目標】 Webシステム開発の基本操作を授業で展開するので、授業に沿ってグループ内で目標とするAIシステムの基本ができるようになる。						
じゅぎょうがいよう 授業概要	React、DjangoのフレームワークやDockerの仮想環境を使用してWebシステム開発環境を構築する。						
じゅぎょう 授業の うんえいほうほう 運営方法	開発環境に関するそれぞれの内容を説明し、実演しながら各自のパソコン上に必要とする開発環境を構築する。						
たんとうきょういん 担当教員 からの メッセージ	1年次に学修したJavaScript言語やPython言語を復習して授業に臨むこと。 Webシステムの開発環境を各自のパソコン上に構築するため、ひとつひとつ手を動かして慣れるとともに、エラーが発生したときはグループ内で協力して解決できるようにしてほしい。						
りかいど 理解度 テスト	区切りの良いところで理解度テストを実施する。						
ていきしけん 定期試験	【受験資格】出席率70%以上の学生 【試験方法】開発環境構築に関して指示通りの環境構築ができるかどうかを試験する。						
せいせきひょうか 成績評価 の ほうほう 方法・基準	本校の成績評価基準に基づき、到達目標達成度を次の方法で評価。 ・平常点（授業態度や演習への取り組み）10% ・理解度テスト 40% ・定期試験 50%						
オフィス アワー	放課後、メールベースあるいは対面にて対応。但し、事前に都合を確認のこと。						
きょうざい 教材	授業に必要なファイルはクラスルームにて共有する。						
さんこうしょ 参考書	実装で学ぶフルスタックWeb開発、佐藤・伊東・上野著、翔泳社、3300円+税						

か も く め い 科目名	か い は つ じ し ゅ う AI システム開発実習b	た ん と う き ょ う い ん 担当教員	隅岡
じ ゅ ぎ ょ う け い か く 授 業 計 画			
か い す う 回数	じ ゅ ぎ ょ う な い よ う 授 業 内 容	け い た い AL の 形 態	じ ゅ ぎ ょ う ね ら 授 業 の 狙 い
し ゅ う め 1週目	ガイダンス		
し ゅ う め 2週目	Webシステム開発の ^{か い は つ き ほん ち し き} 基本知識	じ ぜ ん が く し ゅ う が た 事前学 習 型 ち ょ う さ が く し ゅ う が た 調査学 習 型	Webシステム開発に ^{か い は つ か ん} 関する知識を身につける
し ゅ う め 3週目	Reactの ^{か い は つ か ん き ょ う こ う ち く} 開発環境構築	ち ょ う さ が く し ゅ う が た 調査学 習 型	か い は つ か ん き ょ う こ う ち く 開発環境を構築できる ようになる
し ゅ う め 4週目	Djangoの ^{か い は つ か ん き ょ う こ う ち く} 開発環境構築	ち ょ う さ が く し ゅ う が た 調査学 習 型	
し ゅ う め 5週目	VSCodeとDockerの ^{か い は つ か ん き ょ う こ う ち く} 開発環境構築	ち ょ う さ が く し ゅ う が た 調査学 習 型	
し ゅ う め 6週目	フロントエンドとバックエンドのシステム ^{れ ん け い} 連携（1）	じ ぜ ん が く し ゅ う が た 事前学 習 型 ち ょ う さ が く し ゅ う が た 調査学 習 型	フ ロ ン ト エ ン ド と バ ッ ク エ ン ド を 作 成 し 連 携 で さ く せ い れ ん け い きるようになる
し ゅ う め 7週目	フロントエンドとバックエンドのシステム ^{れ ん け い} 連携（2）	じ ぜ ん が く し ゅ う が た 事前学 習 型 ち ょ う さ が く し ゅ う が た 調査学 習 型	
し ゅ う め 8週目	ふ く し ゅ う お よ び て い き し け ん 復 習 及 び 定 期 試 験		
し ゅ う め 9週目	て い き し け ん な い よ う か い せ つ 定 期 試 験 内 容 の 解 説		
け い た い な い よ う AL 形 態 の 内 容 じ ぜ ん が く し ゅ う が た き ょ う い ん け い じ し り ょ う よ じ ぜ ん が く し ゅ う じ つ せ ん ち ゅ う し ん じ ゅ ぎ ょ う 事前学 習 型：あらかじめ教員が掲示した資料を読み事前に学 習 し、実践を中心とした授 業 ち ょ う さ が く し ゅ う が た も ん だ い か い け つ か ん れ ん し ょ せ き み ず か ち ょ う さ ま な じ ゅ ぎ ょ う 調査学 習 型：問題解決のため、インターネットや関連書籍を自らが調査し、学んでいく授 業			

令和 7 年度シラバス

				担当教員	実務経験
				隅岡 隆之	○
				田中 正彦	○
対象学科	□IG ■AI □GS □BD □GB □IL				
科目名	AIシステム開発実習c				
年次	2 年	開講期	第3期	区分	必修口選択口必選
授業到達目標	【最終期授業の到達目標】 自分が企画したシステムを制作（プログラミング）できるようになる。 【当期授業の到達目標】 オリジナルシステムの企画書・設計書を作成し、プログラミングできるようになる。また問題を自らの力で解決する能力を身につける。				
授業概要	システム開発経験を有する教員から設計とプログラミングに対する知識を説明する。様々なツールなども利用しつつ実際にシステムを制作できる能力を身につける。				
授業の運営方法	実習及び質疑応答				
担当教員からのメッセージ	様々なアイデアを出し、それを実現するためにはどうしたらいいのか。常に色々考え続けて授業に参加すること。また、発生した問題を自分で解決する能力を身につけること（インターネットで検索する/他者へ相談するなど）。				
理解度テスト、課題（レポート等）	授業毎に、理解度テスト、課題を提出。				
定期試験	【受験資格】出席率70%以上の学生 【試験方法】課題制作による試験				
成績評価の方法・基準	本校の成績評価基準に基づき、到達目標達成度を次の方法で評価。 - 定期試験 50% - 平常点（授業態度や演習への取り組み）10% - 理解度テスト 40%				
オフィスアワー	放課後、メールベースあるいは対面にて対応。但し、事前に都合を確認のこと。				
教材	なし				
参考書					

科目名	AIシステム開発実習c	担当教員	隅岡・田中
授業計画			
回数	授業内容	ALの形態	授業の狙い
1週目	作品制作① (詳細設計書作成)	対話・議論型 調査学習型	作品制作を通して開発スキルとコミュニケーションスキルを身につける 課題解決する能力を身につける
2週目	作品制作② (プログラミング・DB作成・設計書管理)	対話・議論型 調査学習型	
3週目	作品制作③ (プログラミング・DB管理・設計書管理)	対話・議論型 調査学習型	
4週目	作品制作④ (プログラミング・DB管理・設計書管理)	対話・議論型 調査学習型	
5週目	作品制作⑤ (プログラミング・DB管理・設計書管理)	対話・議論型 調査学習型	
6週目	作品制作⑥ (プログラミング・DB管理・設計書管理)	対話・議論型 調査学習型	
7週目	作品制作⑦ (プログラミング・DB管理・設計書管理)	対話・議論型 調査学習型	
8週目	発表準備/プレゼンテーション/実演	プレゼンテーション	他者のアイディアなどを聞き、今後の参考とする
9週目	フィードバック	調査学習型	反省点をまとめる
【AL形態の内容】 対話議論型：講師からの発問による対話、学生間の議論を取り入れた講義 事前学習型：あらかじめ講師が提示した資料を読み事前に学習し、実践を中心とした講義。 調査学習型：問題解決のため、インターネットや関連書籍を自らが調査し、学んでいく講義。			

令和 7 年度シラバス

				担当教員		実務経験	
				隅岡 隆之		○	
				田中 正彦		○	
対象学科	□IG ■AI □GS □BD □GB □IL						
科目名	AIシステム開発実習d						
年次	2 年	開講期	第4期	区分	必修口選択口必選	授業時数	144 時間
授業 到達目標	【最終期授業の到達目標】 自分が企画したシステムを制作（プログラミング）できるようになる。 【当期授業の到達目標】 オリジナルシステムを完成させる。また、システムの品質を高めるスキルを身につける。						
授業概要	システム開発経験を有する教員から設計とプログラミングに対する知識を説明する。様々なツールなども利用しつつ実際にシステムを制作できる能力を身につける。						
授業の 運営方法	実習及び質疑応答						
担当教員 からの メッセージ	様々なアイデアを出し、それを実現するためにはどうしたらいいのか。常に色々考え続けて授業に参加すること。また、発生した問題を自分で解決する能力を身につけること（インターネットで検索する/他者へ相談するなど）。						
理解度 テスト、課題 など (レポート等)	授業毎に、理解度テスト、課題を提出。						
定期試験	【受験資格】出席率70%以上の学生 【試験方法】課題制作による試験						
成績評価の 方法・基準	本校の成績評価基準に基づき、到達目標達成度を次の方法で評価。 - 定期試験 50% - 平常点（授業態度や演習への取り組み）10% - 理解度テスト 40%						
オフィス アワー	放課後、メールベースあるいは対面にて対応。但し、事前に都合を確認のこと。						
教材	なし						
参考書							

科目名	AIシステム開発実習d	担当教員	隅岡・田中
授業計画			
回数	授業内容	ALの形態	授業の狙い
1週目	作品制作① (テスト仕様書作成)	対話・議論型 調査学習型	作品制作を通して開発スキルとコミュニケーションスキルを身につける 課題解決する能力を身につける 品質向上を目指す
2週目	作品制作② (プログラミング・DB管理・設計書管理)	対話・議論型 調査学習型	
3週目	作品制作③ (プログラミング・DB管理・設計書管理)	対話・議論型 調査学習型	
4週目	作品制作④ (プログラミング・DB管理・設計書管理)	対話・議論型 調査学習型	
5週目	作品制作⑤ (プログラミング・DB管理・設計書管理)	対話・議論型 調査学習型	
6週目	作品制作⑥ (プログラミング・DB管理・設計書管理)	対話・議論型 調査学習型	
7週目	作品制作⑦ (プログラミング・DB管理・設計書管理)	対話・議論型 調査学習型	
8週目	発表準備/プレゼンテーション/実演	プレゼンテーション	他者のアイディアなどを聞き、今後の参考とする
9週目	フィードバック	調査学習型	反省点をまとめる
【AL形態の内容】 対話議論型：講師からの発問による対話、学生間の議論を取り入れた講義 事前学習型：あらかじめ講師が掲示した資料を読み事前に学習し、実践を中心とした講義。 調査学習型：問題解決のため、インターネットや関連書籍を自らが調査し、学んでいく講義。			

れいわ ねんど
令和 7 年度シラバス

れいわ ねんど 令和 7 年度シラバス				たんとくきょういん 担当教員		じつむけいけん 実務経験	
				田中 正彦		○	
たいしょうがつか 対 象 学 科	□IG ■AI □GS □BD □GB □IL						
かもくめい 科 目 名	Web プレゼンテーション実習a						
ねんじ 年 次	ねん 2年	かいこうき 開講期	だい き 第1期	くぶん 区 分	ひつしゅう せんたく ひつせん □必修■選択□必選	じゅぎょうじすう 授 業 時 数	じかん 36 時間
じゅぎょう 授 業 とうたつもくひょう 到達目標	(さいしゅうきじゅぎょう とうたつもくひょう) 【最終期授 業の到達目標】 じぶんが企画したアプリケーションができるようになる(旭 消防署と連携研究に繋がアプリ) (とうきじゅぎょう とうたつもくひょう) 【当期授 業の到達目標】 システム開発に必要な設計書を様式に合わせて作成できるようになる。また問題を自らの力で解決する能力を身につける。						
じゅぎょうがいよう 授 業 概 要	システム開発経験を有する教員から設計とプログラミングに対する知識を説明する。様々なツールなども利用しつつ実際にシステムを制作できる能力を身につける。						
じゅぎょう 授 業 の うんえいほうほう 運 営 方 法	じつしゅうおよび 実 習 及 び 自 主 研 究 ・ 調 査						
たんとくきょういん 担 当 教 員 からの めっせーじ メッセー ジ	さまざまなアイデアを出し、それを実現するためにはどうしたらいいのか。常に色々考え続けて授業に参加すること。また、発生した問題を自分で解決する能力を身につけること(インターネットで検索する/他者へ相談するなど)。						
りかいど 理 解 度 てすと テ ス ト	じゅぎょうごと りかいどてすと かだい ていしゅつ 授 業 毎 に、理 解 度 テ ス ト、課 題 を 提 出。						
ていきしけん 定 期 試 験	【受験資格】出席率70%以上の学生 【試験方法】課題制作による試験（設計書）						
せいせきひょうか 成 績 評 価 の ほうほう きじゅん 方 法 ・ 基 準	ほんこう せいせきひょうかきじゅん もとづき とうたつもくひょうたっせいど つぎ ほうほう ひょうか 本校の成績評価基準に基づき、到達目標達成度を次の方法で評価。 ・ 定期試験 50% ・ 平常点（積極的授業参加や演習への取り組み）10% ・ 理解度テスト 40%						
オフィス アワー	ほうかご めーるべーす たいめん たいおう ただし じぜん つごう かくにん 放課後、メールベースあるいは対面にて対応。但し、事前に都合を確認のこと。						
きょうざい 教 材	なし						
さんこうしょ 参 考 書							

科目名	Web プレゼンテーション実習a	担当教員	田中
授 業 計 画			
回数	授 業 内 容	AL の形態	授 業 の狙い
1 週 目	ガイダンス・チームビルディング システム開発の流れについて（設計）	対話・議論型	システム制作を通して 開発スキルとコミュニケーションスキルを身につける
2 週 目	システム開発演習（設計）① （概要設計書の説明・スケジュール作成）	事前学習型 対話・議論型	
3 週 目	システム開発演習（設計）② （詳細設計書の説明・役割分担・制作開始）	事前学習型 対話・議論型	
4 週 目	システム開発演習（設計）③ （システム制作：プログラミング・DB作成）	事前学習型 対話・議論型	
5 週 目	システム開発演習（設計）④ （システム制作：プログラミング・DB管理）	事前学習型 対話・議論型	
6 週 目	課題設定（設計） （各自課題を設定／設計書変更）	対話・議論型 調査学習型	課題を設定して、解決する能力を身につける
7 週 目	設計書まとめ （設計書完成、プレゼンテーション資料作成）	対話・議論型 調査学習型	
8 週 目	発表準備/プレゼンテーション/実演	プレゼンテーション	他者のアイデアなどを聞き、今後の参考とする
9 週 目	フィードバック	調査学習型	反省点をまとめる
【AL形態の内容】 対話議論型：講師からの発問による対話、学生間の議論を取り入れた講義 事前学習型：あらかじめ講師が掲示した資料を読み事前に学習し、実践を中心とした講義。 調査学習型：問題解決のため、インターネットや関連書籍を自らが調査し、学んでいく講義。			

れいわ ねんど
令和 7 年度シラバス

れいわ ねんど 令和 7 年度シラバス				たんとくきょういん 担当教員		じつむけいけん 実務経験	
				田中 正彦		○	
たいしょうがつか 対 象 学 科	□IG ■AI □GS □BD □GB □IL						
かもくめい 科 目 名	Web プレゼンテーション実習b						
ねんじ 年 次	ねん 2年	かいこうき 開講期	だい き 第2期	くぶん 区 分	ひつしゅう せんたく ひつせん □必修■選択□必選	じゅぎょうじすう 授 業 時 数	じかん 36 時間
じゅぎょう 授 業 とうたつもくひょう 到達目標	(さいしゅうきじゅぎょう とうたつもくひょう) 【最終期授 業の到達目標】 じぶん きかく せいさく (設計) できるようになる。 (とう きじゅぎょう とうたつもくひょう) 【当期授 業の到達目標】 オリジナルシステムの企画書・設計書を作成し、プログラミングできるようになる。また もんだい みずから ちから かいけつ のうりよく み 問題を自らの力で解決する能力を身につける。						
じゅぎょうがいよう 授 業 概 要	システム開発経験を有する教員から設計とプログラミングに対する知識を説明する。様々なツ ールなども利用しつつ実際にシステムを制作できる能力を身につける。						
じゅぎょう 授 業 の うんえいほうほう 運 営 方 法	じっしゅうおよびしつぎおうとう 実 習 及 び 質 疑 応 答						
たんとくきょういん 担 当 教 員 からの めっせーじ メッセー ジ	さまざまなアイデアを出し、それを実現するためにはどうしたらいいのか。常に色々考え続けて 授 業 に参加すること。また、発生した問題を自分で解決する能力を身につけること(インター ネットで検索する/他者へ相談するなど)。						
りかいど 理 解 度 てすと テ ス ト	じゅぎょうごと りかいど てすと かだい ていしゅつ 授 業 毎 に、理 解 度 テ ス ト、課 題 を 提 出。						
ていきしけん 定 期 試 験	【受験資格】 しゅつせきりつ70 いじょう がくせい (しけんほうほう) かだいせいさく しけん 【試験方法】課題制作による試験 (設計書)						
せいせきひょうか 成 績 評 価 の ほうほう きじゅん 方 法 ・ 基 準	ほんこう せいせきひょうかきじゅん もとづき とうたつもくひょうたっせいど つぎ ほうほう ひょうか 本校の成績評価基準に基づき、到達目標達成度を次の方法で評価。 ていきしけん 50% ・ 定期試験 50% へいじょうてん じゅぎょうたいど えんしゅう とりくみ 10% ・ 平常点 (授 業 態 度 や 演 習 へ の 取 り 組 み) 10% りかいど てすと 40% ・ 理解度テスト 40%						
オフィス アワー	ほうかご めーべーす たいめん たいおう ただし じぜん つごう かくにん 放課後、メールベースあるいは対面にて対応。但し、事前に都合を確認のこと。						
きょうざい 教 材	なし						
さんこうしょ 参 考 書							

科目名	Web プレゼンテーション実習b	担当教員	田中
授 業 計 画			
回数	授 業 内 容	AL の形態	授 業 の狙い
1しゅうめ 1 週 目	オリジナル作品企画（設計）① (各自アイデアを検討・企画書作成)	対話・議論型 調査学習型	作品制作を通して開発スキルとコミュニケーションスキルを身につける 課題解決する能力を身につける
2しゅうめ 2 週 目	オリジナル作品企画（設計）② (企画書・概要設計書作成)	対話・議論型 調査学習型	
3しゅうめ 3 週 目	オリジナル作品企画（設計）③ (プレゼン資料作成)	対話・議論型 調査学習型	
4しゅうめ 4 週 目	作品制作（設計）① (システム開発：プログラミング・DB作成)	対話・議論型 調査学習型	
5しゅうめ 5 週 目	作品制作（設計）② (システム開発：プログラミング・DB管理)	対話・議論型 調査学習型	
6しゅうめ 6 週 目	作品制作（設計）③ (システム開発：プログラミング・DB管理)	対話・議論型 調査学習型	
7しゅうめ 7 週 目	作品制作（設計）④ (システム開発：プログラミング・DB管理)	対話・議論型 調査学習型	
8しゅうめ 8 週 目	発表準備/プレゼンテーション/実演	プレゼンテーション	他者のアイデアなどを聞き、今後の参考とする
9しゅうめ 9 週 目	フィードバック	調査学習型	反省点をまとめる
【AL形態の内容】 対話議論型：講師からの発問による対話、学生間の議論を取り入れた講義 事前学習型：あらかじめ講師が掲示した資料を読み事前に学習し、実践を中心とした講義。 調査学習型：問題解決のため、インターネットや関連書籍を自らが調査し、学んでいく講義。			

令和 7 年度シラバス

				担当教員 たんとうきょういん		実務経験 じつむけいけん	
				郭 捷		○	
対象学科 たいしょうがつか	□IG □AI ■GS □BD □GB □IL						
科目名 かものめい	日本語コミュニケーションⅡa にほんご						
年次 ねんじ	2 年 ねん	開講期 かいこうき	第 1 期 だい き	区分 くぶん	必修 ひつしゅう ■必修□選択□必選	授業時数 じゅぎょうじすう	36 時間 じかん
授業 とうたつもくひょう 到達目標	【最終期授業の到達目標】 発話を重視した授業を通し、実際の場面において使える日本語コミュニケーション力をつける。 JLPT (N2) 相当の日本語力を身につけ、検定試験の合格を目指す。 【当期授業の到達目標】 1 年次に習得済みの JLPT (N2) 合格相当の文字・語彙・文法力の定着化。 日本語能力試験における文字（漢字）部分の出題傾向を深く知る。						
授業概要 じゅぎょうがいよう	教科書解説、問題演習を通し、検定試験の問題を解けるように指導する。						
授業の 運営方法 うんえいほうほう	① 教科書の課ごとに、PPTや配付資料を参考に発話を重視した授業を行う。 ② 授業内容確認のため問題演習を行う。 ③ Formsを活用した理解度テストを行う。						
担当教員 からの メッセージ たんとうきょういん	発話を重視した授業展開を考えています。 クラスでの発言や会話する機会を多くし、話すことで日本語力を高めていきましょう。						
理解度 テスト、課題 りかいど	毎週、宿題として課す新出単語と各授業内容を反映した理解度テストを行う。						
定期試験 ていきしけん	【受験資格】出席率70%以上の学生 【試験方法】授業内容と理解度テスト内容を範囲とし、応用として初見問題を取り入れる。 試験問題配分：漢字2割、語彙3割、文法3割、読解2割で作成。						
成績評価の 方法・基準 せいせきひょうか	平常点10%、ループリック20%、理解度テスト20%、定期試験50%						
オフィス アワー	放課後に対応可能。ただし、メールで事前に予約すること。						
教材 きょうざい	「日本語能力試験20日で合格N2文法力アップドリル」国書刊行会 「日本語能力試験20日で合格N2文字・語彙・文法」国書刊行会						
参考書 さんこうしょ	国際交流基金・日本国際教育支援協会、日本語能力試験 https://www.jlpt.jp/						

科目名	日本語コミュニケーションⅡa	担当教員	郭
授業計画			
回数	内容	ALの形態	授業の狙い
1週目	オリエンテーション		
2週目	・漢字練習 ・N2文法力アップドリル 1日目	発話重視の 講義	検定試験を受ける上での 日本語能力を身に付ける
3週目	・漢字練習 ・N2文法力アップドリル 2日目	発話重視の 講義	
4週目	・漢字練習 ・N2文法力アップドリル 3日目	発話重視の 講義	
5週目	・漢字練習 ・N2文法力アップドリル 4日目	発話重視の 講義	
6週目	・漢字練習 ・N2文法力アップドリル 5日目	発話重視の 講義	
7週目	総復習・予備日	事前学習型 授業	
8週目	定期試験	定期試験	1学期の授業内容に 関して理解度を測定する
9週目	・試験解説を通して振り返り ・漢字練習 ・N2文法力アップドリル 6日目		振り返りを通し、定着し たかを確認する
AL形態の内容 事前学習型授業:教科書／参考書等(動画教材は除く)により講義部分を授業外に事前学習させた上で、授業内で その事前学習にもとづく演習を行わせる方法。 ロールプレイ:学生に特定の役割を与えて演じさせることを通じ、それぞれの立場の人等の考え方を体験的に学ぶ 方法。 その他:その他、アクティブラーニングの要素を含むと考えられる方法。括弧書きで具体的な内容を記載する。 (発話、会話を重視した授業)			

令和 7 年度シラバス

				担当教員 たんとうきょういん		実務経験 じつむけいけん	
				郭 捷		○	
対象学科 たいしょうがつか	□IG □AI ■GS □BD □GB □IL						
科目名 かものめい	日本語コミュニケーションⅡb にほんご						
年次 ねんじ	2 年 ねん	開講期 かいこうき	第 2 期 だい き	区分 くぶん	必修選択必修 ひつしゅうせんたくひつしゅう	授業時数 じゅぎょうじすう	36 時間 じかん
授業 とうたつもくひょう 到達目標	【最終期授業の到達目標】 発話を重視した授業を通し、実際の場面において使える日本語コミュニケーション力をつける。 JLPT (N2) 相当の日本語力を身につけ、検定試験の合格を目指す。 【当期授業の到達目標】 1 年次に習得済みの JLPT (N2) 合格相当の文字・語彙・文法力の定着化。 日本語能力試験における語彙部分の出題傾向を深く知る。						
授業概要 じゅぎょうがいよう	教科書解説、問題演習を通し、検定試験の問題を解けるように指導する。						
授業の 運営方法 うんえいほうほう	① 教科書の課ごとに、PPTや配付資料を参考に発話を重視した授業を行う。 ② 授業内容確認のため問題演習を行う。 ③ Formsを活用した理解度テストを行う。						
担当教員 からの メッセージ たんとうきょういん	発話を重視した授業展開を考えています。 クラスでの発言や会話する機会を多くし、話すことで日本語力を高めていきましょう。						
理解度 テスト、課題 りかいど	毎週、宿題として課す新出単語と各授業内容を反映した理解度テストを行う。						
定期試験 ていきしけん	【受験資格】出席率70%以上の学生 【試験方法】授業内容と理解度テスト内容を範囲とし、応用として初見問題を取り入れる。 試験問題配分：漢字2割、語彙3割、文法3割、読解2割で作成。						
成績評価の 方法・基準 せいせきひょうか	平常点10%、ループリック20%、理解度テスト20%、定期試験50%						
オフィス アワー	放課後に対応可能。ただし、メールで事前に予約すること。						
教材 きょうざい	「日本語能力試験20日で合格N2文法力アップドリル」国書刊行会 「日本語能力試験20日で合格N2文字・語彙・文法」国書刊行会						
参考書 さんこうしょ	国際交流基金・日本国際教育支援協会、日本語能力試験 https://www.jlpt.jp/						

科目名	日本語コミュニケーションⅡb	担当教員	郭
授 業 計 画			
回数	内容	ALの形態	授業の狙い
1週目	・漢字練習 ・N2文法力アップドリル 7日目	はつわじゅうし 発話重視の 講義	検定試験を受ける上での 日本語能力を身に付ける
2週目	・漢字練習 ・N2文法力アップドリル 8日目	はつわじゅうし 発話重視の 講義	
3週目	・漢字練習 ・N2文法力アップドリル 9日目	はつわじゅうし 発話重視の 講義	
4週目	・漢字練習 ・N2文法力アップドリル 10日目	はつわじゅうし 発話重視の 講義	
5週目	・漢字練習 ・N2文法力アップドリル 11日目	はつわじゅうし 発話重視の 講義	
6週目	・漢字練習 ・N2文法力アップドリル 12日目	はつわじゅうし 発話重視の 講義	
7週目	総復習・予備日	じぜんがくしゅうがた 事前学習型 授業	
8週目	定期試験	ていきしけん 定期試験	2学期の授業内容に 関して理解度を測定する
9週目	・試験解説を通して振り返り ・漢字練習 ・N2文法力アップドリル 13日目		振り返りを通し、定着し たかを確認する
AL形態の内容 事前学習型授業:教科書／参考書等(動画教材は除く)により講義部分を授業外に事前学習させた上で、授業内で その事前学習にもとづく演習を行わせる方法。 ロールプレイ:学生に特定の役割を与えて演じさせることを通じ、それぞれの立場の人等の考え方を体験的に学ぶ 方法。 その他:その他、アクティブラーニングの要素を含むと考えられる方法。括弧書きで具体的な内容を記載する。 (発話、会話を重視した授業)			

令和 7 年度シラバス

れいわ ねんど 令和 7 年度シラバス				たんとうきよういん 担当教員		じつむけいけん 実務経験	
				郭 捷		○	
たいしょうがつか 対 象 学 科	□IG □AI ■GS □BD □GB □IL						
かもくめい 科目名	にほんご 日本語コミュニケーションⅡc						
ねんじ 年次	2 年	かいこうき 開講期	だい 3 期	くぶん 区分	■必修□選択□必選	じゅぎょうじすう 授 業 時 数	36 時間
じゅぎょう 授 業 とうたつもくひょう 到達目標	【最終期授業の到達目標】 発話を重視した授業を通し、実際の場面において使える日本語コミュニケーション力をつける。 JLPT (N2) 相当の日本語力を身につけ、検定試験の合格を目指す。 【当期授業の到達目標】 1 年次に習得済みの JLPT (N2) 合格相当の文字・語彙・文法力の定着化。 日本語能力試験における文法部分の出題傾向を深く知る。						
じゅぎょうがいよう 授業概要	きょうかしやかいせつ もんだいえんしゅう とおし けんていしけん もんだい と ける しどう 教科書解説、問題演習を通し、検定試験の問題を解けるように指導する。						
じゅぎょう 授業の うんえいほうほう 運営方法	① 教科書の課ごとに、PPTや配付資料を参考に発話を重視した授業を行う。 ② 授業内容確認のため問題演習を行う。 ③ Formsを活用した理解度テストを行う。						
たんとうきよういん 担当教員 からの メッセージ	はつわ じゅうし じゅぎょうてんかい かんがえて 発話を重視した授業展開を考えています。 クラスでの発言や会話する機会を多くし、話すことで日本語力を高めていきましょう。						
りかいど 理解度 てすと かだい テスト、課題	まいしゅう しゅくだい か す しんしゅつたんご かくじゅぎょうないよう ほんえい りかいど おこな 毎週、宿題として課す新出単語と各授業内容を反映した理解度テストを行う。						
ていきしけん 定期試験	【受験資格】出席率70%以上の学生 【試験方法】授業内容と理解度テスト内容を範囲とし、応用として初見問題を取り入れる。 試験問題配分：漢字2割、語彙3割、文法3割、読解2割で作成。						
せいせきひょうか 成績評価の ほうほう きじゅん 方法・基準	へいじょうてん 平常点10%、ルーブリック20%、理解度テスト20%、定期試験50%						
オフィス アワー	ほうかご たいおうかのう 放課後に対応可能。ただし、メールで事前に予約すること。						
きょうざい 教 材	「日本語能力試験20日で合格N2文法力アップドリル」国書刊行会 「日本語能力試験20日で合格N2文字・語彙・文法」国書刊行会						
さんこうしょ 参考書	こくさいこうりゅうききん にほんこくさいきょういくしえんきょうかい にほんごのうりよくしけん 国際交流基金・日本国際教育支援協会、日本語能力試験 https://www.jlpt.jp/						

科目名	日本語コミュニケーションⅡc	担当教員	郭
授業計画			
回数	内容	ALの形態	授業の狙い
1週目	・漢字練習 ・N2文法力アップドリル 14日目	発話重視の講義	検定試験を受ける上での日本語能力を身に付ける
2週目	・漢字練習 ・N2文法力アップドリル 15日目	発話重視の講義	
3週目	・漢字練習 ・N2文法力アップドリル 16日目	発話重視の講義	
4週目	・漢字練習 ・N2文法力アップドリル 17日目	発話重視の講義	
5週目	・漢字練習 ・N2文法力アップドリル 18日目	発話重視の講義	
6週目	・漢字練習 ・N2文法力アップドリル 19日目	発話重視の講義	
7週目	総復習・予備日	事前学習型授業	
8週目	定期試験	定期試験	3学期の授業内容に関して理解度を測定する
9週目	・試験解説を通して振り返り ・漢字練習 ・N2文法力アップドリル 20日目		振り返りを通し、定着したかを確認する
AL形態の内容 事前学習型授業:教科書／参考書等(動画教材は除く)により講義部分を授業外に事前学習させた上で、授業内での事前学習にもとづく演習を行わせる方法。 ロールプレイ:学生に特定の役割を与えて演技させることを通じ、それぞれの立場の人等の考え方を体験的に学ぶ方法。 その他:その他、アクティブラーニングの要素を含むと考えられる方法。括弧書きで具体的な内容を記載する。 (発話、会話を重視した授業)			

令和 7 年度シラバス

				担当教員 たんとうきょういん		実務経験 じつむけいけん	
				郭 捷		○	
対象学科 たいしやうがつか	□IG □AI ■GS □BD □GB □IL						
科目名 かものめい	日本語コミュニケーションⅡd にほんご						
年次 ねんじ	2 年 ねん	開講期 かいこうき	第 4 期 だい き	区分 くぶん	必修 ひつしゅう ■必修□選択□必選	授業時数 じゅぎやうじすう	36 時間 じかん
授業 とうたつもくひやう 到達目標	【最終期授業の到達目標】 発話を重視した授業を通し、実際の場面において使える日本語コミュニケーション力をつける。 JLPT (N2) 相当の日本語力を身につけ、検定試験の合格を目指す。 【当期授業の到達目標】 1 年次に習得済みの JLPT (N2) 合格相当の文字・語彙・文法力の定着化。 日本語能力試験における読解部分の出題傾向を深く知る。						
授業概要 じゅぎやうがいよう	教科書解説、問題演習を通し、検定試験の問題を解けるように指導する。						
授業の うんえいほうほう 運営方法	① 教科書の課ごとに、PPTや配付資料を参考に発話を重視した授業を行う。 ② 授業内容確認のため問題演習を行う。 ③ Formsを活用した理解度テストを行う。						
担当教員 からの メッセージ	発話を重視した授業展開を考えています。 クラスでの発言や会話する機会を多くし、話すことで日本語力を高めていきましょう。						
理解度 テスト、課題	毎週、宿題として課す新出単語と各授業内容を反映した理解度テストを行う。						
定期試験	【受験資格】出席率70%以上の学生 【試験方法】授業内容と理解度テスト内容を範囲とし、応用として初見問題を取り入れる。 試験問題配分：漢字2割、語彙3割、文法3割、読解2割で作成。						
成績評価の ほうほう 方法・基準	平常点10%、ループリック20%、理解度テスト20%、定期試験50%						
オフィス アワー	放課後に対応可能。ただし、メールで事前に予約すること。						
教材	「日本語能力試験20日で合格N2文法力アップドリル」国書刊行会 「日本語能力試験20日で合格N2文字・語彙・文法」国書刊行会						
参考書	国際交流基金・日本国際教育支援協会、日本語能力試験 https://www.jlpt.jp/						

科目名	日本語コミュニケーションⅡd	担当教員	郭
授 業 計 画			
回数	内容	ALの形態	授業の狙い
1週目	・漢字練習 ・N2文字・語彙・文法 1日目	はつわじゅうし 発話重視の 講義	検定試験を受ける上での 日本語能力を身に付ける
2週目	・漢字練習 ・N2文字・語彙・文法 2日目	はつわじゅうし 発話重視の 講義	
3週目	・漢字練習 ・N2文字・語彙・文法 3日目	はつわじゅうし 発話重視の 講義	
4週目	・漢字練習 ・N2文字・語彙・文法 4日目	はつわじゅうし 発話重視の 講義	
5週目	・漢字練習 ・N2文字・語彙・文法 5日目	はつわじゅうし 発話重視の 講義	
6週目	・漢字練習 ・N2文字・語彙・文法 6日目	はつわじゅうし 発話重視の 講義	
7週目	総復習・予備日	じぜんがくしゅうがた 事前学習型 授業	
8週目	定期試験	ていきしけん 定期試験	4学期の授業内容に 関して理解度を測定する
9週目	・試験解説を通して振り返り ・漢字練習 ・N2文字・語彙・文法 7日目		振り返りを通して、定着し たかを確認する
AL形態の内容 事前学習型授業:教科書／参考書等(動画教材は除く)により講義部分を授業外に事前学習させた上で、授業内で その事前学習にもとづく演習を行わせる方法。 ロールプレイ:学生に特定の役割を与えて演じさせることを通じ、それぞれの立場の人等の考え方を体験的に学ぶ 方法。 その他:その他、アクティブラーニングの要素を含むと考えられる方法。括弧書きで具体的な内容を記載する。 (発話、会話を重視した授業)			

令和 7 年度シラバス

				担当教員		実務経験	
				影山 正幸		○	
対象学科	□IG □AI □GS ■BD □GB □IL						
科目名	コンプライアンス（週2）						
年次	2 年	開講期	第 1 期	区分	■必修□選択□必選	授業時数	36 時間
授業到達目標	【最終期授業の到達目標】 DX（デジタルトランスフォーメーション）などによるデジタル社会の進展がビジネスに与える影響に対応することができる。 【当期授業の到達目標】 急速に変化するビジネスを取り巻く環境の対応と理解ができる。 消費者と事業者との間で締結した契約について理解できる。						
授業概要	法律の体系を示しつつ、ビジネスに関係する法律を取り上げ、その原理や考え方のポイントを、実務に即して説明する。						
授業の運営方法	コンプライアンスのチュートリアル項目を中心に授業を進め、必要な事例問題を提示する。事例問題の説明をしたのち、学生はテキストと事例問題を参照しながら理解を深める。						
担当教員からのメッセージ	さまざまな事例問題を理解しながら、似たようなケースの理解も含めてチャレンジしてほしい。						
理解度テスト、課題	毎回Formsによる確認テストを実施する。						
定期試験	【受験資格】出席率70%以上の学生 【試験方法】「筆記試験」または「フォームによる試験」						
成績評価の方法・基準	本校の成績評価基準に基づき、到達目標達成度を次の方法で評価する。 - 定期試験 50% - 平常点（授業態度や演習への取り組み）10% - 理解度テスト 40%						
オフィスアワー	放課後、メールベースあるいは対面にて対応。但し、事前に都合を確認のこと。						
教材	コンプライアンスのすべて 取り組むことが求められるこれまでとこれからのテーマ						
参考書	コンプライアンスのすべて 取り組むことが求められるこれまでとこれからのテーマ						

科目名	コンプライアンス	担当教員	影山
授業計画			
回数	内容	ALの形態	授業の狙い
1週目	コンプライアンスはあなたにどう関係するのか	事前学習型	
2週目	コンプライアンスはあなたにどう関係するのか		
3週目	あなたと会社とコンプライアンス		
4週目	あなたと会社とコンプライアンス		
5週目	あなたと職場とコンプライアンス		
6週目	あなたと職場とコンプライアンス		
7週目	総復習（試験対策）		
8週目	定期試験		知識の定着確認
9週目	定期試験の振り返り		
アクティブラーニングの類型 事前学習型授業：教科書／参考書等により講義部分を授業外に事前学習させた上で、授業内でその事前学習にもとづく演習をおこなわせる方法			

科目名	コンプライアンス	担当教員	影山
授業計画			
回数	内容	ALの形態	授業の狙い
10週目	あなたと仕事とコンプライアンス	事前学習型	
11週目	あなたと仕事とコンプライアンス		
12週目	あなたと情報とコンプライアンス		
13週目	あなたと情報とコンプライアンス		
14週目	あなたと社会とコンプライアンス		
15週目	あなたと社会とコンプライアンス		
16週目	総復習（試験対策）		
17週目	定期試験		知識の定着確認
18週目	定期試験の振り返り		
アクティブラーニングの類型 事前学習型授業：教科書／参考書等により講義部分を授業外に事前学習させた上で、授業内でその事前学習にもとづく演習をおこなわせる方法			

令和 7 年度シラバス

				担当教員 たんとくきょういん		実務経験 じつむけいけん	
				影山 正幸		○	
対象学科 たいしょうがつか	□IG □AI □GS □GB ■BD □IL						
科目名 かもくめい	情報セキュリティ対策 (週4)						
年次 ねんじ	2 年 ねん	開講期 かいこうき	第 3 期 だい 3 き	区分 くぶん	必修選択 ひつしゅうせんたく	必修 ひつせん	授業時数 じゅぎょうじすう
							36 時間 36 じかん
授業 とうたつもくひょう 到達目標	【最終期授業の到達目標】 情報セキュリティに関する基本知識を習得し、インシデントに対応することができる。 【当期授業の到達目標】 情報セキュリティの基本が理解(りかい)できる。インシデントへの対応をすることができる。						
授業概要 じゅぎょうがいよう	セキュリティ上のリスクを理解し、それらに対応するための技術を理解する。						
授業の うんえいほうほう 運営方法	情報セキュリティの基本的な内容の理解を中心に授業を進め、必要な技術や対応策を提示する。具体的な事例等の説明をしたのち、学生は授業内容と具体的な事例を参照しながら理解度テスト等で理解を深める。						
担当教員 からの メッセージ	情報セキュリティへの理解を深め、具体的な対応策なども含めて習得していただきたい。						
理解度 テスト、課題 りかいど	毎回Formsによる確認テストを実施する。						
定期試験 ていきしけん	【受験資格】 出席率70%以上の学生 【試験方法】 「筆記試験」 または 「フォームによる試験」						
成績評価の ほうほう 方法・基準	本校の成績評価基準に基づき、到達目標達成度を次の方法で評価する。 - 定期試験 50% - 平常点 (授業態度や演習への取り組み) 10% - 理解度テスト 40%						
オフィス アワー	放課後、メールベースあるいは対面にて対応。但し、事前に都合を確認のこと。						
教材 きょうざい	イラスト図解満載 情報セキュリティの基礎知識 技術評論社						
参考書 さんこうしょ	イラスト図解満載 情報セキュリティの基礎知識 技術評論社						

科目名	情報セキュリティ対策	担当教員	影山
授業計画			
回数	内容	ALの形態	授業の狙い
1週目	情報セキュリティとは	事前学習型	
2週目	最新技術を取り巻くセキュリティのリスク		
3週目	情報セキュリティを理解するために知っておきたい技術		
4週目	暗号の基本を理解する		
5週目	サイバー攻撃のしくみ		
6週目	インシデントに対応するために		
7週目	総復習（試験対策）		
8週目	定期試験		知識の定着確認
9週目	定期試験の振り返り		
アクティブラーニングの類型 事前学習型授業：教科書／参考書等により講義部分を授業外に事前学習させた上で、授業内でその事前学習にもとづく演習をおこなわせる方法			

令和 7 年度シラバス

				担当教員		実務経験	
				影山 正幸		○	
対象学科	□IG □AI □GS ■BD □GB □IL						
科目名	クラウドサービス活用法 (週4)						
年次	2 年	開講期	第 4 期	区分	■必修□選択□必選	授業時数	36 時間
授業到達目標	【最終期授業の到達目標】 クラウドサービスの基本的な内容を理解し、その活用により様々な課題を解決することができる。 【当期授業の到達目標】 クラウドサービスの基本的な内容が理解できる。ビジネスへのクラウドサービスの積極的な活用方法を利用することができる。						
授業概要	クラウドの基本的な内容、ビジネスや技術、サービス、活用事例などを、イラスト図解などを参照しながら理解していく。						
授業の運営方法	クラウドの基本的な内容を中心に授業を進め、必要な図解や事例などを提示する。それらの説明をしたのち、学生は授業資料などを参照しながら理解度テスト等で理解を深める。						
担当教員からのメッセージ	デジタル化の流れが加速し、さまざまな業種業界、さまざまな利用用途で、ますますクラウドサービスを採用する流れが進んでいます。そのような時代の先端に行くビジネスのしくみを理解してください。						
理解度テスト、課題	まいかいForms 毎回Formsによる確認テストを実施する。						
定期試験	【受験資格】 出席率70%以上の学生 【試験方法】 「筆記試験」または「フォームによる試験」						
成績評価の方法・基準	本校の成績評価基準に基づき、到達目標達成度を次の方法で評価する。 - 定期試験 50% - 平常点 (授業態度や演習への取り組み) 10% - 理解度テスト 40%						
オフィスアワー	放課後、メールベースあるいは対面にて対応。但し、事前に都合を確認のこと。						
教材	イラスト図解式 この一冊で全部わかるクラウドの基本 SBクリエイティブ						
参考書	イラスト図解式 この一冊で全部わかるクラウドの基本 SBクリエイティブ						

科目名	クラウドサービス活用法	担当教員	影山
授業計画			
回数	内容	ALの形態	授業の狙い
1週目	クラウドとは	事前学習型	
2週目	クラウドのサービスとその利用		
3週目	クラウドを実現する技術		
4週目	クラウド導入に向けて		
5週目	クラウドサービス事業者		
6週目	業種別・目的別クラウド活用例		
7週目	総復習（試験対策）		
8週目	定期試験		知識の定着確認
9週目	定期試験の振り返り		
アクティブラーニングの類型 事前学習型授業：教科書／参考書等により講義部分を授業外に事前学習させた上で、授業内でその事前学習にもとづく演習をおこなわせる方法			

令和 7 年度シラバス

				担当教員	実務経験
				影山 正幸	○
対象学科	□IG □AI □GS ■BD □GB □IL				
科目名	ビジネスプロセスマネジメント実践 (週8)				
年次	2 年	開講期	第 1 期	区分	必修 選択 必選 授業時数 144 時間
授業到達目標	【最終期授業の到達目標】 ケーススタディによりビジネスプロセスマネジメントを実践できるようになる。 【当期授業の到達目標】 ビジネスプロセスマネジメントの基本を理解し目標設定や計画立案ができるようになる。				
授業概要	ビジネスプロセスマネジメントを課題と実践を通しての基礎を理解します。				
授業の運営方法	考えるための手段を例題と問題で考えながら進めていく。				
担当教員からのメッセージ	ビジネスプロセスマネジメントの基本を理解して、ケーススタディで活用できるようになりましょう。				
理解度テスト、課題	毎回Formsによる確認テストを実施する。 PowerPoint課題を実施する。(フローチャート作成等)				
定期試験	【受験資格】出席率70%以上の学生 【試験方法】「筆記試験」または「フォームによる試験」				
成績評価の方法・基準	本校の成績評価基準に基づき、到達目標達成度を次の方法で評価する。 - 定期試験 50% - 平常点 (授業態度や演習への取り組み) 10% - 理解度テスト 40%				
オフィスアワー	放課後、メールベースあるいは対面にて対応。但し、事前に都合を確認のこと。				
教材	クラスルームに配布する電子テキスト				
参考書	プロジェクトマネジメント実践講座				

科目名	ビジネスプロセスマネジメント実践	担当教員	影山
授業計画			
回数	内容	ALの形態	授業の狙い
1週目	市場の洞察と戦略的アプローチ	事前学習型	
2週目	ビジネスの方向性を考える（戦略的コンサル思考） フレームワーク活用		
3週目	ビジネスの方向性を考える（戦略的コンサル思考）ビジネス 理論・コンセプト		
4週目	アイデアや計画をプレゼンする		
5週目	顧客訪問とプレゼン（提案書のプレゼン）		
6週目	効果的な交渉支援（交渉の手助けをする）		
7週目	総復習（試験対策）		
8週目	定期試験		知識の定着確認
9週目	定期試験の振り返り		
アクティブラーニングの類型 事前学習型授業：教科書／参考書等により講義部分を授業外に事前学習させた上で、授業内でその事前学習にもとづく演習をおこなわせる方法			

科目名	ビジネスプロセスマネジメント実践	担当教員	影山
授業計画			
回数	内容	ALの形態	授業の狙い
10週目	ビジネスでのマーケティング手法	事前学習型	
11週目	生産量拡大のための体制整備		
12週目	ビジネスリスク管理と対策計画		
13週目	問題解決への取り組み方①		
14週目	問題解決への取り組み方②		
15週目	問題解決への取り組み方③		
16週目	総復習（試験対策）		
17週目	定期試験		知識の定着確認
18週目	定期試験の振り返り		
アクティブラーニングの類型			
事前学習型授業：教科書／参考書等により講義部分を授業外に事前学習させた上で、授業内でその事前学習にもとづく演習をおこなわせる方法			

れいわ ねんど 令和 7 年度シラバス				担当教員 たんとうきょういん		実務経験 じつむけいけん	
				佐竹 真彰		○	
対象学科 たいしょうがつか	□IG □AI □GS ■BD □GB □IL						
科目名 かもくめい	コミュニケーション技法Ⅱ（週4）						
年次 ねんじ	2 年 ねん	開講期 かいこうき	第 1-2 期 だい き	区分 くぶん	必修選択必選 ひつしゅう せんたく ひつせん	授業時数 じゅぎょう じすう	72 時間 72 じかん
授業 到達目標 じゅぎょう とうたつもくひょう	【【最終期授業の到達目標】】 さまざまなビジネスシーンにおけるコミュニケーションの手法を活用できる。 【当期授業の到達目標】 さまざまなビジネスシーンにおけるコミュニケーションの手法を理解する。						
授業概要 じゅぎょうがいよう	プレゼン資料作成法、短文化、グラフ化、チャート化、図解カラー化、スライドの作り方、動画の作り方、プレゼンの留意点、ボディランゲージを身につけます。						
授業の 運営方法 うんえいほうほう	コミュニケーションを通じて、具体的に段階的に解説していく。 物事を円滑に進めていく手段として、例題と問題で考えながら実践していく。						
担当教員 からの メッセージ たんとうきょういん	システム開発やビジネスシーンにおいて、正確な答えを導き出すために必要な要素を網羅しながらも、それらが重複しないようにする考え方は重要です。 コミュニケーションを活用した問題解決方法を理解して、活用できるようになりましょう。						
理解度 テスト、課題 りかいど	毎回Formsによる確認テストやパワーポイント作成による記述式問題を実施する。						
定期試験 ていきしけん	【受験資格】出席率70%以上の学生 【試験方法】「筆記試験」または「フォームによる試験」						
成績評価の 方法・基準 せいせきひょうか	本校の成績評価基準に基づき、到達目標達成度を次の方法で評価する。 ・定期試験 50% ・平常点（授業態度や演習への取り組み）10% ・理解度テスト 40%						
オフィス アワー	放課後、メールベースあるいは対面にて対応。但し、事前に都合を確認のこと。						
教材 きょうざい	クラスルームに配布(はいふ)する電子(でんし)テキスト						
参考書 さんこうしょ	1. パワーポイント最速仕事術 前田 謙利（著）ダイヤモンド社 2. 自分を大きく見せる話し方 コミュニケーション技法 3. 豊かな表現力を身につける プレゼンテーション技法 編著 株式会社ウイネット プレゼンテーション学会 発行 ウイネット 4. コミュニケーション検定 上級 公式ガイドブック＆問題集 5.						

科目名	コミュニケーション技法Ⅱ	担当教員	佐竹
授業計画			
回数	内容	ALの形態	授業の狙い
1週目	第1章 プレゼン資料作成法 基礎	反転授業 グループワーク	コミュニケーションの技術を具体的に段階的に解説していく。 例題と問題で考えながら進めていく。
2週目	第1章 プレゼン資料作成法 基礎		
3週目	第2章 プレゼン資料作成法 短文化		
4週目	第2章 プレゼン資料作成法 短文化3		
5週目	第3章 プレゼン資料作成法 グラフ化		
6週目	第3章 プレゼン資料作成法 グラフ化		
7週目	総復習 (試験対策)		
8週目	定期試験		知識の定着確認
9週目	定期試験の振り返り		
アクティブラーニングの類型 事前学習型授業：教科書／参考書等により講義部分を授業外に事前学習させた上で、授業内でその事前学習にもとづく演習をおこなわせる方法			

科目名	コミュニケーション技法Ⅱ	担当教員	佐竹
授 業 計 画			
回数	内容	ALの形態	授業の狙い
10週目	第4章 プレゼン資料作成法 チャート化・グラフ化	反転授業 グループワーク	コミュニケーションの技術を具体的に段階的に解説していく。 例題と問題で考えながら進めていく。
11週目	第4章 プレゼン資料作成法 チャート化・グラフ化		
12週目	第5章 プレゼン資料作成法 図解カラー化		
13週目	第6章 プレゼン資料作成法 スライドの作り方		
14週目	第7章 プレゼン資料作成法 動画の作り方		
15週目	第8章 プレゼン留意点、ボディーランゲージ		
16週目	総復習（試験対策）		
17週目	定期試験		知識の定着確認
18週目	定期試験の振り返り		
アクティブラーニングの類型			
事前学習型授業：教科書／参考書等により講義部分を授業外に事前学習させた上で、授業内でその事前学習にもとづく演習をおこなわせる方法			

令和 7 年度シラバス

				担当教員		実務経験	
				影山 正幸		○	
対象学科	□IG □AI □GS ■BD □GB □IL						
科目名	プロジェクト管理手法 (週4)						
年次	2 年	開講期	第 3 期	区分	■必修 □選択 □必選	授業時数	72 時間
授業到達目標	【最終期授業の到達目標】 プロジェクトの全体像と管理手法を理解し、業務フローチャートに落とし込むことができる。 【当期授業の到達目標】 プロジェクトの全体像と管理手法を理解し、業務フローチャートに落とし込むことができる。						
授業概要	業務の全体像を理解して業務フローチャートに落とし込み、プロジェクトの管理ができる基礎を身につける。						
授業の運営方法	プロジェクト管理の基本的な内容の理解を中心に授業を進め、必要な技術や対応策を提示する。具体的な事例等の説明をしたのち、学生は授業内容と具体的な事例を参照しながら理解度テスト等で理解を深める。						
担当教員からのメッセージ	プロジェクト管理への理解を深め、具体的な対応策なども含めて習得していただきたい。						
理解度テスト、課題	毎回Formsによる確認テストを実施する。						
定期試験	【受験資格】 出席率70%以上の学生 【試験方法】 「筆記試験」または「フォームによる試験」						
成績評価の方法・基準	本校の成績評価基準に基づき、到達目標達成度を次の方法で評価する。 - 定期試験 50% - 平常点 (授業態度や演習への取り組み) 10% - 理解度テスト 40%						
オフィスアワー	放課後、メールベースあるいは対面にて対応。但し、事前に都合を確認のこと。						
教材	・業務フローチャートの作り方						
参考書	・業務フローチャートの作り方						

科目名	プロジェクト管理手法	担当教員	影山
授業計画			
回数	内容	ALの形態	授業の狙い
1週目	誰でもつくれる、読める業務フローチャートの基本1	事前学習型	
2週目	誰でもつくれる、読める業務フローチャートの基本2		
3週目	心の残業を減らして省エネで働く仕組みをつくる1		
4週目	心の残業を減らして省エネで働く仕組みをつくる2		
5週目	業務フローチャートのつくり方の基本1		
6週目	業務フローチャートのつくり方の基本2		
7週目	総復習（試験対策）		
8週目	定期試験		知識の定着確認
9週目	定期試験の振り返り		
アクティブラーニングの類型 事前学習型授業：教科書／参考書等により講義部分を授業外に事前学習させた上で、授業内でその事前学習にもとづく演習をおこなわせる方法			

科目名	プロジェクト管理手法	担当教員	影山
授業計画			
回数	内容	ALの形態	授業の狙い
10週目	業務フローチャートのつくり方の実践1	事前学習型	
11週目	業務フローチャートのつくり方の実践2		
12週目	業務フローチャートをつくれれば、見えるもの1		
13週目	業務フローチャートをつくれれば、見えるもの2		
14週目	業務改善のやり方、進め方1		
15週目	業務改善のやり方、進め方2		
16週目	総復習（試験対策）		
17週目	定期試験		知識の定着確認
18週目	定期試験の振り返り		
アクティブラーニングの類型			
事前学習型授業：教科書／参考書等により講義部分を授業外に事前学習させた上で、授業内でその事前学習にもとづく演習をおこなわせる方法			

令和 7 年度シラバス

				担当教員		実務経験	
				影山 正幸		○	
対象学科	□IG □AI □GS ■BD □GB □IL						
科目名	先端 I T 技術活用事例研究 (週4)						
年次	2 年	開講期	第 3 期	区分	必修口選択口必選	授業時数	72 時間
授業 到達目標	【最終期授業の到達目標】 ITのトレンドや変化の本質を理解できる。 【当期授業の到達目標】 ITのトレンドや変化の本質を理解できる。						
授業概要	ビジネスプロセスマネジメントへの先端 I T 技術活用事例の調査・研究を行います。						
授業の 運営方法	先端ITのチュートリアル項目を中心に授業を進め、必要なテクノロジーのキーワードを提示する。学生はテキストや事例を参照しながら理解を深める。						
担当教員 からの メッセージ	授業を通じてITのトレンドが、自分たちのビジネスにどんな変化をもたらすのかを先読みできるようにしてほしい。						
理解度 テスト、課題	毎回Formsによる確認テストを実施する。						
定期試験	【受験資格】出席率70%以上の学生 【試験方法】「筆記試験」または「フォームによる試験」						
成績評価の 方法・基準	本校の成績評価基準に基づき、到達目標達成度を次の方法で評価する。 - 定期試験 50% - 平常点 (授業態度や演習への取り組み) 10% - 理解度テスト 40%						
オフィス アワー	放課後、メールベースあるいは対面にて対応。但し、事前に都合を確認のこと。						
教材	クラスルームに配布する電子テキスト						
参考書	図解コレ1枚でわかる最新ITトレンド						

科目名	先端IT技術活用事例研究	担当教員	影山
授業計画			
回数	内容	ALの形態	授業の狙い
1週目	最新のITトレンドを理解するためのデジタルITの基本	事前学習型	
2週目	ビジネスに変革を迫るデジタル・トランスフォーメーション		
3週目	DXを支えるITインフラストラクチャー		
4週目	コンピュータの使い方の新しい常識となったクラウド・コンピューティング		
5週目	デジタル前提の社会に適応するためのサイバー・セキュリティ		
6週目	あらゆるものごとやできごとをデータでつなぐIoTと5G		
7週目	総復習（試験対策）		
8週目	定期試験		知識の定着確認
9週目	定期試験の振り返り		
アクティブラーニングの類型 事前学習型授業：教科書／参考書等により講義部分を授業外に事前学習させた上で、授業内でその事前学習にもとづく演習をおこなわせる方法			

科目名	先端IT技術活用事例研究	担当教員	影山
授業計画			
回数	内容	ALの形態	授業の狙い
10週目	複雑化する社会を理解し適応するためのAIとデータ・サイエンス①	事前学習型	
11週目	複雑化する社会を理解し適応するためのAIとデータ・サイエンス②		
12週目	圧倒的なスピードが求められる開発と運用		
13週目	いま注目しておきたいテクノロジー①		
14週目	いま注目しておきたいテクノロジー②		
15週目	いま注目しておきたいテクノロジー③		
16週目	総復習（試験対策）		
17週目	定期試験		知識の定着確認
18週目	定期試験の振り返り		
アクティブラーニングの類型 事前学習型授業：教科書／参考書等により講義部分を授業外に事前学習させた上で、授業内でその事前学習にもとづく演習をおこなわせる方法			

令和 7 年度シラバス

				担当教員	実務経験
				佐竹 真彰	○
対象学科	□IG □AI □GS ■BD □GB □IL				
科目名	データ・A I 活用（週4）				
年次	2 年	開講期	第 3-4 期	区分	必修選択必修
授業到達目標	【最終期授業の到達目標】 事例や現実社会での課題を解決することができる。 【当期授業の到達目標】 データの意味が理解(りかい)できる。AI活用を活用したWebやアプリを利用することができる。				
授業概要	データ & A I 技術を活用した課題解決を身につけます。				
授業の運営方法	課題解決事例を用意し、考えるための手段を例題と問題で考えながら進めていく。				
担当教員からのメッセージ	キーボード配置を覚えて、可能な限りブラインドタッチができるようになってほしい。授業中のサンプルを打ち込むだけでなく、さまざまな問題にチャレンジしてほしい。				
理解度テスト、課題	毎回Formsによる確認テストを実施する。 各単元に基づいた問題を個人及びグループで実施する。				
定期試験	【受験資格】 出席率70%以上の学生 【試験方法】 「筆記試験」または「フォームによる試験」				
成績評価の方法・基準	本校の成績評価基準に基づき、到達目標達成度を次の方法で評価する。 - 定期試験 50% - 平常点（授業態度や演習への取り組み）10% - 理解度テスト 40%				
オフィスアワー	放課後、メールベースあるいは対面にて対応。但し、事前に都合を確認のこと。				
教材	教科書 データ・A I 活用、問題 データ・A I 活用 オリジナル教材				
参考書					

科目名	データ・AI活用	担当教員	佐竹
授業計画			
回数	内容	ALの形態	授業の狙い
1週目	1. データ活用の基礎 データとは何か？ (構造化データ・非構造化データ)	事前学習型	
2週目	2. データ活用の基礎 データの収集・整理 (Excel/Googleスプレッドシートを活用)		
3週目	3. データ活用の基礎 基本統計 (平均、中央値、分散、標準偏差)		
4週目	4. データ活用の基本 国際化の基本 (グラフ、ヒストグラム、散布図)		
5週目	5. データ活用の基本 事例1: 売上データの集計とグラフ化		
6週目	6. データ分析の基礎 相関関係と起こる関係 (Excel相関係数機能・ピボットテーブルの活用) データクレンジング (欠損値・異常値処理) 事例2: 顧客アンケートデータの分析		
7週目	総復習 (試験対策)		
8週目	定期試験		知識の定着確認
9週目	定期試験の振り返り		
アクティブラーニングの類型 事前学習型授業: 教科書/参考書等により講義部分を授業外に事前学習させた上で、授業内でその事前学習にもとづく演習をおこなわせる方法			

科目名	データ・AI活用	担当教員	佐竹
授業計画			
回数	内容	ALの形態	授業の狙い
10週目	7. データ分析の基礎 相関関係と起こる関係 (Excel相関係数機能・ピボットテーブルの活用) データクレンジング (欠損値・異常値処理) 事例2: 顧客アンケートデータの分析	事前学習型	
11週目	8. 機械学習の基礎 AI・機械学習の仕組みを理解する (ノーコードで学ぶ) (回帰分析) 事例3: 顧客の購買傾向を分類する (Excel回帰分析)		
12週目	9. AIを活用した意思決定 予測モデル・需要予測・ 事例4: 来月の売上を予測する (Excel予測シート機能)		
13週目	10. 画像・テキストデータの活用 画像AI・テキスト 事例5: SNSの投稿から話題を分析する		
14週目	11. 実践的なデータ活用事例 ビジネスAIの倫理と 事例6: AIを活用したマーケティング最適化		
15週目	総復習 (試験対策)		
16週目	総復習 (試験対策)		
17週目	定期試験		知識の定着確認
18週目	定期試験の振り返り		
アクティブラーニングの類型 事前学習型授業: 教科書/参考書等により講義部分を授業外に事前学習させた上で、授業内でその事前学習にもとづく演習をおこなわせる方法			

令和 7 年度シラバス

れいわ ねんど 令和 7 年度シラバス				たんとうきょういん 担当教員		じつむけいけん 実務経験	
				佐竹 真彰		○	
たいしょうがつか 対 象 学 科	□IG □AI □GS ■BD □GB □IL						
かもくめい 科 目 名	ビジネスデザイン企画実践 I （週8）						
ねん じ 年 次	ねん 2 年	かいこう き 開講期	だい 1-2 き 第 1-2 期	くぶん 区 分	ひつしゅう せんたく ひつせん ■必修□選択□必選	じゅぎょう じ すう 授 業 時 数	144 じ かん 144 時間
じゅぎょう 授 業 とうたつともくひょう 到達目標	【最終期授 業の到達目 標】 じっしゅう えんしゅう と お して さんがくれんけいきぎょう かだいいかいけつ 実 習や演 習を通して産学連携企業の課題解決にむけてと り く さくひん かんせい 作品を完成させる。 【当期授 業の到達目 標】 とう き じゅぎょう とうたつともくひょう じっしゅう とお り かい せいさく こうじょう め ざ 実 習を通して理解し、制作スキルの向 上を目指し、ネット じょう かつようほうほう 上での活用方法についても理解 する。1年間の活動を振り返り、自分の言葉で報告を 行 う。						
じゅぎょうがいよう 授 業 概 要	きぎょうじれい まな さんがくれんけいきぎょう かだいいかいけつ む け た せいさく と く 企業事例を学び、産学連携企業の課題解決に向けた制作に取り組む。 1年間を振り返り、活動記録をまとめる。						
じゅぎょう 授 業 の うんえいほうほう 運 営 方 法	さんがくれんけい かん ないよう かん こう ぎ えんしゅう ・ 産学連携に関する内容に関する講義、演 習 ・ テーマ出題、グループディスカッション、発表 かだいていしゅつ せいかぶつ しりょう さくひん ・ 課題提出（成果物：プレゼン資料、作品） さんがくれんけいさき がくいんちよう してい じゅぎょう うんえいほうほう へんこう ※産学連携先（学院長・キャリアセンター指定）によって授 業の運 営方法が変更となる かのうせい 可能性あり こうがいがくしゅう じっしよてい けんがく ひよう こうつうひ がくせいふたん ※校外学 習によるフィールドワークも実施予定（見学にかかる費用および交通費は学生負担）						
たんとうきょういん 担 当 教 員 からの メッセー ジ	しゃがい で る しゅうい きよりよく しごと すすめるきかい た た 社会に出ると周囲と 協 力しながら仕事を進める機会が多々あります。 グループワークを通してコミュニケーションの重要性を理解し、 協 力して課題に取り組んで ほしい。 また、プレゼンテーションソフトが活用できるだけでなく、身近な問題や課題に視点を向ける しせい やしな 姿勢を 養 ってほしい。						
り かい ど 理 解 度 て す と かだい テ ス ト、課 題	課題提出、プレゼンを行い状況確認とフィードバックを実施 えんしゅう 演 習およびグループワークでは、参加態度・ 姿勢も評価する。						
ていきしけん 定 期 試 験	【じゅけんしかく しゅつせきりつ いじょう がくせい 受 験 資 格】出席率70%以上の学生 しけんほうほう ひつきしけん かだいさくせい せいかぶつていしゅつ はつびよう 【試 験 方 法】「筆記試験」および「課題作成と成果物提出・ 発表」						
せいせきひょうか 成 績 評 価 の ほうほう きじゆん 方 法・基 準	ほんこう せいせきひょうかきじゆん も と づ き とうたつともくひょうたつせいど つぎ ほうほう ひょうか 本校の成績評価基準に基づき、到達目 標達成度を次の方法で評価する。 ていきしけん 50% ・ 定期試験 へいじょうてん じゅぎょうたいど えんしゅう と り く み 10% ・ 平常点（授 業態度や演 習への取り組み） り かい ど て す と 40% ・ 理解度テ ス ト 40%						
オフィス アワー	ほうかご め ー る ベー す たいめん たいおう ただし じぜん つごう かくにん 放課後、メールベースあるいは対面にて対応。但し、事前に都合を確認のこと。						

きょうざい 教 材	オリジナル教材		
さんこうしょ 参考書			
か もく め い 科目名	ビジネスデザイン企画実践 I	たんとうきょういん 担当教員	佐竹
じゅぎょうけいかく 授 業 計 画			
かいすう 回数	ないよう 内容	けいたい ALの形態	じゅぎょうねら 授 業 の 狙 い
1-2 しゅうめ 週目	プレゼン実践、 さんがくれんけいさき 産学連携先の課題解決 かだいけいけつ に向けたプロモーションを考案。ソーシャルメディアを使ったプロモーション→課題	こうぎ 講義 じっしゅう 実習 調査学習	がつき 4学期までの内容を活か ないよう さんがくれんけいさき し産学連携企業への課題 かだい について検証する。 けんしょう プレゼンテーションソフト を活用し、 かつよう 解決案を考 かいけつあん える。 かんが
3-4 しゅうめ 週目	プレゼン実践、 さんがくれんけいさき 産学連携先の課題解決 かだいけいけつ に向けたプロモーション内容をまとめる		
5-6 しゅうめ 週目	プレゼン実践、 はつびようじゅんぴ 発表準備、 かだいはつびよう 課題発表		
7-8 しゅうめ 週目	プレゼン実践、 か デジタル化・DXでますます便利になる べんり 生活課題 せいかつ		
9-10 しゅうめ 週目	プレゼン実践、 か デジタル化でますます便利になる生活課題 せいかつ 新課題・演習 しんかだい えんしゅう （AI・ChatGPT等をビジネスでの活用方法 かつようほうほう 検討等） けんとう		
11-14 しゅうめ 週目	プレゼン実践、 か デジタル化でますます便利になる生活課題 せいかつ 新課題・演習 しんかだい えんしゅう （AI・ChatGPT等をビジネスでの活用方法 かつようほうほう 検討等） けんとう 課題提出、発表		
15-16 しゅうめ 週目	そうふくしゅう 総復習（試験対策） しけんたいさく		
17週目 しゅうめ	ていきしけん 定期試験		ちしき 知識の定着確認 ていちゃくかくにん
18週目 しゅうめ	ていきしけん 定期試験の振り返り、まとめ ふりかえ		

れいわ ねんど 令和 7 年度シラバス				たんとうきょういん 担当教員		じつむけいけん 実務経験	
				佐竹 真彰		○	
たいしょうがつか 対 象 学 科	□IG □AI □GS ■BD □GB □IL						
かもくめい 科目名	ビジネスデザイン企画実践Ⅱ						
ねんじ 年次	2 年	かいこうき 開講期	だい 3-4 期	くぶん 区分	■必修□選択□必選	じゅぎょうじすう 授 業 時 数	144 時間
じゅぎょう 授 業 とうたつむくひょう 到達目標	【最終期授 業の到達目標】 実 習や演 習を通して産学連携企業の課題解決にむけて取り組み、プレゼンテーションや作品を完成させる。 【当期授 業の到達目標】 実 習を通して理解し、制作スキルの向上を目指し、ネット上での活用方法についても理解する。1年間の活動を振り返り、自分の言葉で報告を行う。						
じゅぎょうがいよう 授業概要	企業事例を学び、産学連携企業の課題解決に向けた制作に取り組む。 1年間の振り返り、活動記録をまとめる						
じゅぎょう 授業の うんえいほうほう 運営方法	・産学連携に関する内容に関する講義、演 習 ・テーマ出題、グループディスカッション、発表 ・課題提出（成果物：プレゼン資料、作品） ※産学連携先（学院長・キャリアセンター指定）によって授 業の運営方法が変更となる可能性あり ※校外学習によるフィールドワークも実施予定（見学にかかる費用および交通費は学生負担）						
たんとうきょういん 担当教員 からの メッセージ	社会に出ると周囲と協 力しながら仕事を進める機会が多々あります。 グループワークを通してコミュニケーションの重要性を理解し、協 力して課題に取り組んでほしい。 また、プレゼンテーションソフトが活用できるだけでなく、身近な問題や課題に視点を向ける姿勢を養 ってほしい。						
りかいど 理解度 てすと かいだい テスト、課題	課題提出、プレゼンを行い状況確認とフィードバックを実施 演 習およびグループワークでは、参加態度・姿勢も評価する。						
ていきしけん 定期試験	【受験資格】出席率70%以上の学生 【試験方法】「筆記試験」および「課題作成と成果物提出・発表」						
せいせきひょうか 成績評価の ほうほう きじゅん 方法・基準	本校の成績評価基準に基づき、到達目 標達成度を次の方法で評価する。 ・定期試験 50% ・平常点（授 業態度や演 習への取り組み）10% ・理解度テスト 40%						
オフィス アワー	放課後、メールベースあるいは対面にて対応。但し、事前に都合を確認のこと。						
きょうざい 教 材	オリジナル教材						

さんこうしょ 参考書			
か もく め い 科目名	ビジネスデザイン企画実践Ⅱ	たんとうきょういん 担当教員	佐竹
じゅ ぎょう けい かく 授 業 計 画			
かいすう 回数	ないよう 内容	けいたい ALの形態	じゅぎょう ねら 授業の狙い
1-2 しゅうめ 週目	プレゼン実践、デジタル化でますます便利になる生活課題 新課題・演習（AI・ChatGPT等をビジネスでの活用方法 検討等）課題提出、発表	こうぎ 講義 じっしゅう 実習 調査学習	がっき 4学期までの内容を活か さんがくれんけいきぎょう し産学連携企業への課題 について検証する。 プレゼンテーションソフト を活用し、解決案を考 える。
3-4 しゅうめ 週目	プレゼン実践、ビジネス活用事例のブラッシュアップと 資料の作成と修正		
5-6 しゅうめ 週目	プレゼン実践、卒業制作発表に向けた準備と計画		
7-8 しゅうめ 週目	プレゼン実践、卒業制作発表に向けた調整と実践練習		
9-10 しゅうめ 週目	プレゼン実践、卒業制作発表と実践・修正		
11-14 しゅうめ 週目	プレゼン実践、卒業制作発表と実践・修正		
15-16 しゅうめ 週目	そうふくしゅう 総復習（試験対策）		
しゅうめ 17週目	ていきしけん 定期試験		ちしき 知識の定着確認
しゅうめ 18週目	ていきしけん 定期試験の振り返り		

令和 7 年度シラバス

				担当教員		実務経験	
				影山 正幸		○	
対象学科	□IG □AI □GS ■BD □GB □IL						
科目名	実践ゼミ（週1）						
年次	2 年	開講期	第 1～4 期	区分	■必修□選択□必選	授業時数	36 時間
授業 到達目標	【最終期授業の到達目標】 就職活動を行いながら、活動上の問題点を整理し対策することによって活動の質を向上し、就職内定できる。 【当期授業の到達目標】 最終期授業の到達目標に同じ。						
授業概要	IT業界でのシステム開発の経験を有する教員が、職場での体験について解説する。就職するために必要な準備、活動について理解し、実際に就職活動を行う。						
授業の 運営方法	授業時までに行った活動についての報告を受け、活動についてアドバイスする。YSEキャリアネットなどを提示しながら、就職活動での注意点を講義する。必要に応じて面接などのロールプレイを実施する。 就職内定した者は目指す検定試験に向けて自習すること。						
担当教員 からの メッセージ	就職内定するためには、早めの動き出しが肝心である。1年次のホームルームでの学習を踏まえ、積極的に就職活動に取り組んでいただきたい。						
理解度 テスト、課題	毎回Formsによる確認テストを実施する。						
定期試験	【受験資格】出席率70%以上の学生 【試験方法】「筆記試験」または「フォームによる試験」						
成績評価の 方法・基準	本校の成績評価基準に基づき、到達目標達成度を次の方法で評価する。 - 定期試験 50% - 平常点（授業態度や演習への取り組み）10% - 理解度テスト 40%						
オフィス アワー	放課後、メールベースあるいは対面にて対応。但し、事前に都合を確認のこと。						
教材	なし						
参考書							

科目名	実践ゼミa	担当教員	影山
授 業 計 画			
回数	内容	ALの形態	授業の狙い
1週目	・就職活動のルールの確認	事前学習型	活動報告を行うことによって今までの就職活動について振り返り、活動内容の質の向上を図る。
2週目	・活動報告とそれに対するアドバイス ・今後の予定について		
3週目	・活動報告とそれに対するアドバイス ・今後の予定について		
4週目	・活動報告とそれに対するアドバイス ・今後の予定について		
5週目	・活動報告とそれに対するアドバイス ・今後の予定について		
6週目	・活動報告とそれに対するアドバイス ・今後の予定について		
7週目	・活動報告とそれに対するアドバイス ・今後の予定について		
8週目	・復習及び定期試験		理解度を確認する
	・まとめと振り返り		
9週目	定期試験の振り返り		フィードバック
アクティブラーニングの類型 ・ロールプレイ…学生に特定の役割を与えて演じさせることを通じ、それぞれの立場の人等の考え方を体験的に学ぶ方法。			

科目名	実践ゼミb	担当教員	影山
授業計画			
回数	内容	ALの形態	授業の狙い
10週目	・就職活動のルールの確認	事前学習型	活動報告を行うことによって今までの就職活動について振り返り、活動内容の質の向上を図る。
11週目	・活動報告とそれに対するアドバイス ・今後の予定について		
12週目	・活動報告とそれに対するアドバイス ・今後の予定について		
13週目	・活動報告とそれに対するアドバイス ・今後の予定について		
14週目	・活動報告とそれに対するアドバイス ・今後の予定について		
15週目	・活動報告とそれに対するアドバイス ・今後の予定について		
16週目	・活動報告とそれに対するアドバイス ・今後の予定について		知識の定着確認
17週目	・復習及び定期試験 ・まとめと振り返り		
18週目	定期試験の振り返り		フィードバック
アクティブラーニングの類型 事前学習型授業：教科書／参考書等により講義部分を授業外に事前学習させた上で、授業内でその事前学習にもとづく演習をおこなわせる方法			

科目名	実践ゼミc	担当教員	影山
授業計画			
回数	内容	ALの形態	授業の狙い
19週目	・就職活動のルールの確認	事前学習型	活動報告を行うことによって今までの就職活動について振り返り、活動内容の質の向上を図る。
20週目	・活動報告とそれに対するアドバイス ・今後の予定について		
21週目	・活動報告とそれに対するアドバイス ・今後の予定について		
22週目	・活動報告とそれに対するアドバイス ・今後の予定について		
23週目	・活動報告とそれに対するアドバイス ・今後の予定について		
24週目	・活動報告とそれに対するアドバイス ・今後の予定について		
25週目	・活動報告とそれに対するアドバイス ・今後の予定について		知識の定着確認
26週目	・復習及び定期試験 ・まとめと振り返り		
27週目	定期試験の振り返り		フィードバック
アクティブラーニングの類型 事前学習型授業：教科書／参考書等により講義部分を授業外に事前学習させた上で、授業内でその事前学習にもとづく演習をおこなわせる方法			

科目名	実践ゼミd	担当教員	影山
授業計画			
回数	内容	ALの形態	授業の狙い
28週目	・就職活動のルールの確認	事前学習型	活動報告を行うことによって今までの就職活動について振り返り、活動内容の質の向上を図る。
29週目	・活動報告とそれに対するアドバイス ・今後の予定について		
30週目	・活動報告とそれに対するアドバイス ・今後の予定について		
31週目	・活動報告とそれに対するアドバイス ・今後の予定について		
32週目	・活動報告とそれに対するアドバイス ・今後の予定について		
33週目	・活動報告とそれに対するアドバイス ・今後の予定について		
34週目	・活動報告とそれに対するアドバイス ・今後の予定について		
35週目	・復習及び定期試験		知識の定着確認
	・まとめと振り返り		
36週目	定期試験の振り返り		フィードバック
アクティブラーニングの類型 事前学習型授業：教科書／参考書等により講義部分を授業外に事前学習させた上で、授業内でその事前学習にもとづく演習をおこなわせる方法			